

令和4年度

会誌

第57号

広島県高等学校教育研究会
英語部会

英語部会会誌 57 号

目 次

巻頭言

- 会誌第 57 号の発刊にあたって 広島県立佐伯高等学校 小野 裕之・・・3

寄稿

- How to Prepare and Qualify for the National English Debate and Speech Competitions
広島県立尾道東高等学校 Patrick Murphy・・・4

事業報告

- 1 第 59 回広島県高等学校教育研究会英語部会定期総会・研究大会・・・6
- 2 第 19 回広島県高校生英語スピーチ・レシテーションコンテスト（オンライン）・・・34
- 3 第 59 回広島県高等学校英作文コンテスト・・・52
- 4 第 14 回広島県高校生英語ディベート大会・・・55
- 5 第 15 回中国地区高等学校英語スピーチコンテスト（オンライン）・・・74
- 6 英語部会の事業・自己研修に関する意識調査アンケート結果・・・79

資料

- 1 各地区における研究授業の実施について・・・89
- 2 生徒作品・・・91
- 3 令和 4 年度広島県教育研究会英語部会概要・・・96
- 4 広島県高等学校教育研究会英語部会会則・・・97

英語部会会員の皆様におかれましては、本部会の研究活動に対し、御理解と御協力を賜り、心より感謝申し上げます。

本部会は、英語教育に係り広島県教育委員会の御指導のもと、学習指導要領の法令に則り、自主的・創造的な教育活動を行い、本県の高等学校、特別支援学校及び高等専門学校教育関係者の資質の向上への寄与と学校教育の振興を図ることを目的としております。令和4年度は、五日市高等学校に設置した事務局を中心に6つの地区の理事、庶務、幹事等の役員を含む、322名の会員の皆様とともに、次の3本の達成目標を掲げ、教員の指導力向上及び生徒の英語力向上に資する研究活動を進めてまいりました。

ア 学びの変革の趣旨（主体的、対話的で深い学び）を踏まえた授業展開や教材開発を行っている。

イ 学びの変革（主体的、対話的で深い学び）と関わりのある内容について研究・研修を行っている。

ウ 高校生育成事業に応募する学校・生徒の数を増加させる。

上記アについては、11月に6地区の高等学校（可部、安芸府中、呉三津田、尾道東、福山工業、庄原格致）において公開研究授業を実施していただき、参加者は授業改善の具体的なヒントを得ることができました。また、イについては、8月に大阪府立大学から中川智皓先生をお招きし、「即興型英語ディベート教員研修」というテーマでワークショップを取り入れた御講演をいただきました。参加者はディベートを取り入れた授業を実践する際のポイントを学ぶことができました。そして、ウについては、10月に、県内の高校生を対象として、英語スピーチ・レシテーションコンテスト（オンライン）、英作文コンテスト、英語ディベート大会（対面式）の3つの大会を実施しました。いずれの大会においても、作品数や参加校数が増加するとともに、質的な向上も見られました。英語スピーチ・レシテーションコンテストで入賞し、広島県代表となった2校の生徒（竹原、尾道東）が、中国大会も勝ち抜き全国大会へ出場するとともに、7校で競った英語ディベート大会については、広島県からはじめて2校（尾道東、武田）が全国大会に出場することとなりました。高校生育成事業において、このような成果が得られたのは、新型コロナウイルス感染症の影響により、対面での様々な学習活動が制約を受けているにも関わらず、会員の皆様が日々の授業の中で授業展開や教材開発などの工夫・改善を行うなどして、効果的な指導法等の研究を行い、生徒への丁寧な指導を継続された結果であると考えております。

本会誌には、研究活動の成果を広く還元するため、各地区で実施された公開研究授業や研究大会など、今年度の研究内容や実践例を収録しております。所属校での日々の実践に役立てていただければ幸いです。

最後になりましたが、今年度の研究活動において、県や各地区の事務局校の役員として、また、研修会や高校生育成事業の3つの大会の審査員や運営担当者として携わっていただいたすべての関係者の方々に感謝申し上げます。本部会としましては、今後も、広島県教育委員会の指導・助言を得て、研究内容の質的な向上を目指すとともに、会員の皆様を対象としたアンケート調査の結果等を参考にして、研究活動のさらなる充実・発展に努めてまいります。引き続き、会員の皆様の御理解と御協力をいただきますようよろしくお願いいたします。

How Onomichi Higashi High School Prepared and Qualified for the National English Debate and Speech Competitions

By Patrick Murphy

This year, Onomichi Higashi High School students were able to join both the national English debate and speech competitions. In this report I would like to explain the process we underwent to prepare for these contests in the hope that other teachers in the prefecture might find something useful to try with their own students.

DEBATE

This year's national English debate resolution decided by the All Japan High School English Debate Association (HENDA) was announced in March of 2022. The resolution was "The Japanese Government should abolish the mandatory retirement age systems (日本政府は定年制を廃止すべきである。是か非か)." Onomichi Higashi has an English debate club which meets 2~3 times a week, and once this topic was announced we immediately started our preparation. At first the students knew nothing about the topic, so as a warm-up we researched, prepared, and held a debate in Japanese in front of retired team members as well as their social studies teacher who gave them feedback with new ideas to think about and new directions to take their research in.



In-School Debate Competition

Following this warm-up in Japanese, the students then prepared and had several English debates with each other including an in-school debate competition, and they also joined several online practice matches and competitions with other schools around the country. With each practice match, the students could learn the weaknesses in their content and think about how to improve it for the next time. Through months



After the Prefectural Competition

of this process (practice match → improve content → repeat), we could prepare for the prefectural competition on October 30th at Itsukaichi High School, and despite there being some very strong schools in attendance that day, we were able to take 1st place. Following the prefectural competition, we continued to prepare in a similar manner for the national competition (held online) on December 17~18th, where we were awarded a Make Friends Special Award for our positive interaction with the opposing

teams.

In addition, at Onomichi Higashi, not only students in the debate club but all students in their first-grade classes learn how to debate. In their English and integrated studies classes, they learn parliamentary style debate in both English and Japanese. We also hold in-class and in-school competitions in English, and for the latter the students must research their content beforehand and prepare speeches, rebuttals, and defenses using evidence. Through these activities, not only do all students improve in the basic areas of speaking, listening, reading, and writing, but they also get skills in critical thinking, media literacy, and teamwork.

SPEECH

As for the speech contest, 2nd grader Natsumi Ishibashi of the International Course (who is also the captain of the debate team) joined the prefectural, regional, and national competitions. In August, after deciding on a topic that she cared about – the acceptance of sexual minorities in Japanese society – she first wrote an outline and then a persuasive speech using Monroe’s

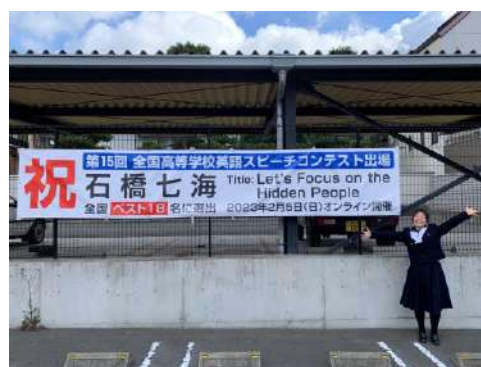


Giving the Speech

Motivated Sequence. Monroe uses the following structure: 1. Attention (capture the listener’s interest), 2. Need (explain the problem), 3. Satisfaction (propose a solution to the problem), 4. Visualization (explain the positive effects of the solution), 5. Action (propose a first step to enacting the solution). This persuasive speech structure is very effective in speech contests, and I strongly recommend using it for competitions.

Natsumi’s content was strong because it was not only subjective, explaining a personal connection to this issue, but also objective, using data and evidence. The speech contest has a time limit of 4:30~5:30, so we aimed for around 500 words. Anything over 550 words is too long in my opinion, because then the student will have no time to make dramatic pauses in the speech, affecting the delivery. Once the speech was written, it was a matter of improving her delivery, so we met several times a week to practice pronunciation, intonation, rhythm, tone, and gestures. On her off time, Natsumi would practice at home by herself with the assistance of a voice recording that I made of her speech.

Through this process we practiced for the upcoming competitions, and at the online prefectural competition on October 1st she took 2nd overall and 1st in her division. Then at the online Chugoku Regional Competition on November 19th she took 3rd overall and 1st in her division, qualifying her for the online national competition on February 5th. Though she didn’t win a prize at the nationals, she did an amazing job, and her content and delivery rivaled the best students in the country.



Celebratory Banner at School

令和4年7月1日

各高等学校長様
各特別支援学校長様
英語部会員様

広島県高等学校教育研究会英語部会
部会長 小野 裕之
(広島県立佐伯高等学校長)

第59回広島県高等学校教育研究会英語部会定期総会・研究大会について（御案内）

標記の会を次の要領により開催いたします。校務など調整の上、御出席下さいますようお願い申し上げます。なお、今回は会場もしくはZoomでの参加を選択できるようになっております。

参加につきましては、7月20日（水）までに、別紙参加申込書を、メールまたはFAXにて御返信ください。

- 1 主催 広島県高等学校教育研究会英語部会
- 2 期日 令和4年8月2日（火）
- 3 会場 広島県立五日市高等学校
〒731-5157 広島県広島市佐伯区観音台3丁目15-1
TEL 082-923-4181 FAX 082-922-9681

4 日程

13:00 - 13:30	受付
13:30 - 13:50	定期総会
14:00 - 16:00	研究大会（Zoom講演） 「教員のための即興型英語ディベート研修」 一般社団法人 パーラメンタリーディベート人財育成協会 PDA事務局 講師 中川 智皓先生 (1) はじめに、ルール説明 (2) 準備1 (3) ディベート実践1（英検準2級論題レベル） (4) ジャッジ実践1 (5) 準備2 (6) ディベート実践2（英検2級論題レベル） (7) ジャッジ実践2 (8) まとめ、アンケート
16:00 - 16:10	閉会行事

- 5 その他
会場にお越しの際は原則として公共交通機関をご利用ください。

（問い合わせ先）
広島県立五日市高等学校英語部会事務局
〒731-5157
広島県広島市佐伯区観音台3丁目15-1
広島県立五日市高等学校 校内
担当 洪 美律
アドレス m-honk880292@hiroshima-c.ed.jp
TEL 082-923-4181 FAX 082-922-9681

第59回
広島県高等学校教育研究会英語部会

定 期 総 会
研 究 大 会
要 項

期 日 令和4年8月2日（火）

会 場 広島県立五日市高等学校
〒731-5157 広島県広島市佐伯区観音台3丁目15-1
TEL 082-923-4181

主 催
広島県高等学校教育研究会英語部会

後 援
広島県教育委員会

第59回広島県高等学校教育研究会英語部会 定期総会・研究大会要項

1 開催関係団体

主催 広島県高等学校教育研究会英語部会

後援 広島県教育委員会

2 期日 令和4年8月2日(火)

3 会場 広島県立五日市高等学校 〒731-5157 広島県広島市佐伯区観音台3丁目15-1

4 日程

13:00 - 13:30 受付

13:30 - 13:50 定期総会

<休憩>

14:00 - 16:00 研究大会(Zoom 講演)

演題 「教員のための即興型英語ディベート研修」

講師 中川 智皓先生

[一般社団法人 パラメンタリーディベート人財育成協会 PDA 事務局](#)

- (1) はじめに, ルール説明
- (2) 準備1
- (3) ディベート実践1(英検準2級論題レベル)
- (4) ジャッジ実践1
- (5) 準備2
- (6) ディベート実践2(英検2級論題レベル)
- (7) ジャッジ実践2
- (8) まとめ, アンケート

16:00 - 16:10 閉会行事 (アンケート Form)

第59回広島県高等学校教育研究会英語部会 定期総会

1 開会行事

- (1) 開会のことば
- (2) 副会長挨拶 広島県立安芸府中高等学校 校長 高橋 真
- (3) 役員紹介
- (4) 日程説明

2 定期総会

議長選出

議事

- 報告1 令和3年度事業報告
- 報告2 令和3年度会計決算並びに監査報告
- 第1号議案 令和4年度本部役員並びに事務局に係る件
- 第2号議案 令和4年度事業計画に係る件
- 第3号議案 平成4年度予算に係る件
- その他

3 閉会行事

閉会のことば

報告 1 令和 3 年度事業報告 (別紙資料 1 参照)

- 1 第 5 8 回定期総会 (書面決議)

- 2 第 1 8 回広島県高校生英語スピーチ・レシテーションコンテストの実施
第 1 4 回中国地区高等学校英語スピーチコンテスト兼第 14 回 全国高等学校英語スピーチコンテスト中国ブロック予選
*オンライン開催

- 3 第 5 8 回広島県高等学校英作文コンテストの実施

- 4 第 1 3 回広島県高校生英語ディベート大会の実施
*オンライン開催

- 5 公開研究授業の実施

- 6 英語部会の事業・自己研修に関する意識調査アンケートの実施

- 7 会誌 5 6 号のデジタル発行
[広島県教育委員会ホームページ](#)に掲載

報告2 令和3年度会計決算並びに監査報告

令和3年度広島県高等学校教育研究会収支決算書

部会名 英語部会

収入の部 (単位:円)

科目	予算額	決算額	増減	内訳
前年度繰越金	318,780	318,780	0	
会費	156,000	139,000	△ 17,000	¥500円×277人=¥138500 広島=北高校1人×会費余分10円+500円
県補助金	0	0	0	
寄付金・助成金	25,000	0	△ 25,000	
雑収入		2		
合計	499,780	457,782	42,498	

支出の部 (単位:円)

科目	予算額	決算額	増減	内訳
経費	157,540	283,313	△ 125,773	
内訳				
理事会費	10,000	0	10,000	
全英連会費	10,000	10,000	0	
英作文コンテスト	19,000	21,000	△ 2,000	副賞図書券¥3,000×3, ¥2,000×1, ¥1,000×4, ¥500×12
英語スピーチ・レシテーションコンテスト	58,540	55,490	3,050	謝金¥5,750×6=¥34,500, 旅費¥1,240(大学教授), 旅費¥5,740(ALT), 講師弁当代¥1,200×3=¥3600, トロフィー代 ¥10,410
英語ディベートオンライン大会	35,000	54,737	△ 19,737	謝金 ¥4,600×6=¥27,600(大学職員), 旅費 ¥4,260 旅費¥5,260, ¥2,280, ¥3,680, ¥2,280, 講師弁当代 ¥1,200×6, ¥2,177=¥9,377
消耗品費	25,000	62,827	△ 37,827	トナー代, DVD, 通信費 他
予備費(予算の次年度繰越含む)	342,240	79,259	262,981	中国スピーチ大会
次年度繰越額		174,469	△ 174,469	
合計	499,780	457,782	41,998	

諸帳簿並びに関係証拠書類を監査の結果、適正に処理されていることを認めます。

令和4年3月24日

会計監査

広島県立五日市高等学校

講師 洪美律



第1号議案 令和4年度本部役員並びに事務局に係る件

役職名	氏名	公職名
会長	小野 裕之	佐伯高等学校校長
副会長	高橋 真	安芸府中高等学校校長
副会長	原田 豊之	油木高等学校校長
監事	矢野 由美子	安芸南高等学校教頭
監事	神笠 薫子	尾道東高等学校教頭
理事	小崎 靖子	可部高等学校教諭
理事	松島 浩司	呉三津田高等学校教諭
理事	マーフィー パトリック	尾道東高等学校講師
理事	時川 直子	海田高等学校教諭
理事	神垣 美穂	庄原格致高等学校教諭
理事	村上 浩司	松永高等学校教諭
庶務	洪 美律	五日市高等学校講師
庶務	久保田 早苗	五日市高等学校教諭
庶務	長原 明夫	五日市高等学校教諭
庶務	中本 真吾	五日市高等学校教諭
会計	檜山 敬二	五日市高等学校教諭

【事務局】

広島県立五日市高等学校

TEL(082)923-4181 FAX(082)922-9681

担当：洪 美律・檜山 敬二・久保田 早苗

第2号議案 令和4年度事業計画に係る件（別紙添付資料参照）

- 1 第59回定期総会並びに研究大会の開催
- 2 第19回広島県高校生英語スピーチ・レシテーションコンテスト
- 3 第59回広島県高等学校英作文コンテスト
- 4 第14回広島県高校生英語ディベート大会
- 5 公開研究授業の実施
- 6 英語部会の事業・自己研修に関する意識調査アンケートの実施
- 7 会誌57号のデジタル発行

第3号議案

令和4年度予算に係る件

令和4年度広島県高等学校教育研究会収支予算書（案）

部会名 英語部会

収入の部 (単位：円)

科 目	予算額	積 算 内 訳
会 費	150,000	500円×300人
県 補 助 金	0	
寄付金・助成金	0	
高校生育成事業参加費	25,000	英語ディベート大会5,000円×5校
前年度繰越金	174,469	
合 計	349,469	

支出の部

科 目	予算額	積 算 内 訳
経 費	157,540	
内 訳	理 事 会 費	10,000 借料・損料, 湯茶代
	全 英 連 会 費	10,000 会費10,000円
	英作文コンテスト	19,000 副賞図書券3,000*2+2,000*2+1,000*4+500*10=19,000円
	県スピーチ・レシテーションコンテスト	58,540 謝金5,600*5=28,000, 旅費9,540 (大学教授) 借料・損料1000円 (電気) トロフィー8,000円 審査員 (ALT) 旅費 弁当・湯茶・雑費等
	英語ディベート大会	35,000 謝金4,790*5=23,950円, 旅費8,085円 (大学職員) 借料・損料1000円 (電気) 弁当・湯茶・雑費等
	消耗品費	25,000 文具代金, 封筒代, ラベルシール代, 通信代等含む
予 備 費	191,929	
合 計	349,469	

その他

(1) 英語部会会費の納入期限は8月18日(水)まで (別紙添付資料参照)

(2) 全英連より案内

- ・ [全英連佐賀大会](#)
- ・ [全英連英作文コンテスト](#)
- ・ [全英連スピーチコンテスト](#)

(全英連ホームページ <http://www.zen-ei-ren.com/>)

(3) アンケート Form

<https://forms.gle/N6PqMxjdANAp28WV6>

第59回広島県高等学校教育研究会英語部会
研究大会

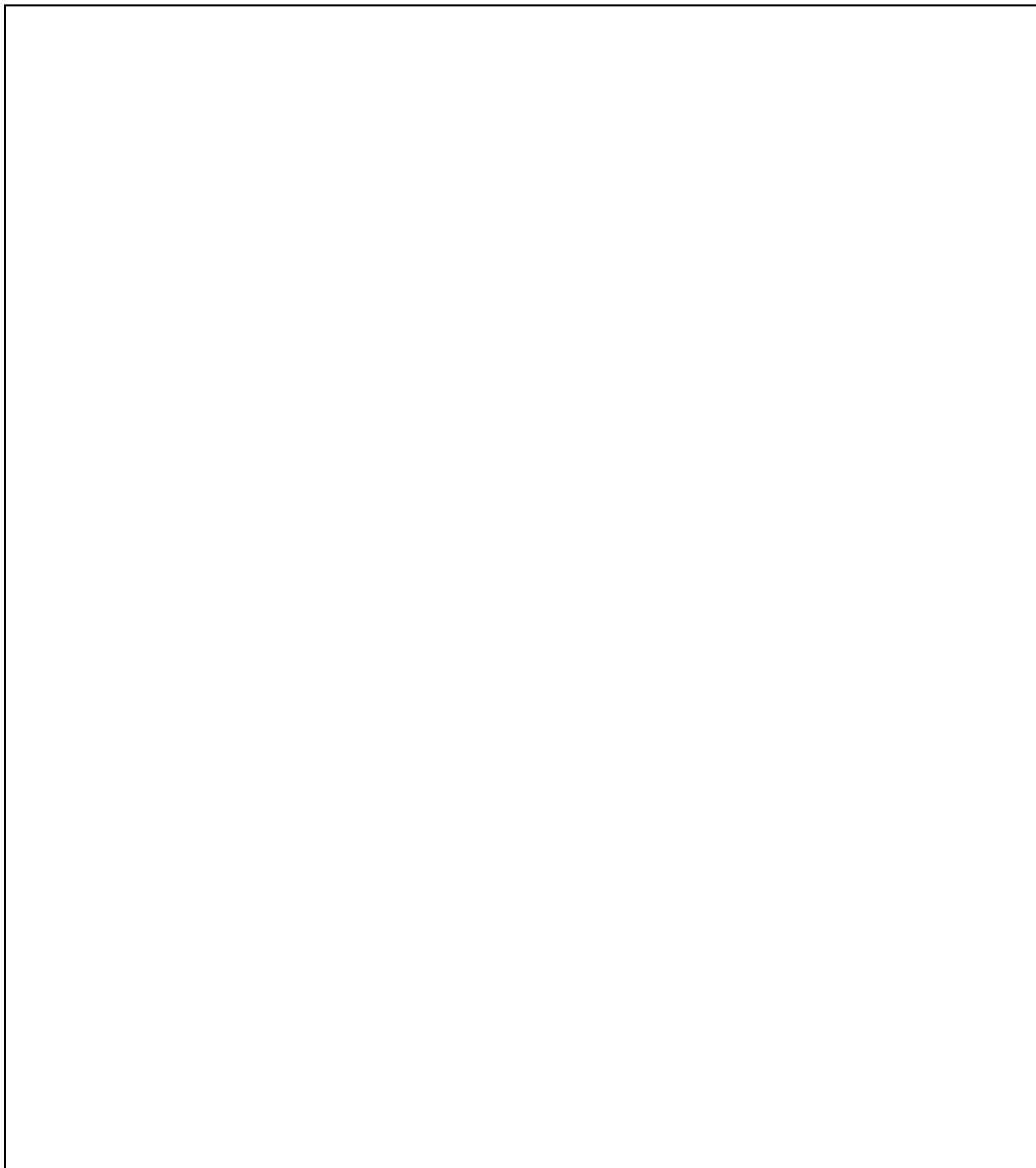
講演 (14:00 - 16:00)

演題 「教員のための即興型英語ディベート研修」

講師 中川 智皓先生

[一般社団法人 パーラメンタリーディベート人財育成協会 PDA 事務局](#)

(別紙添付資料参照)



一般社団法人パラメンタリーディベート人財育成協会 (PDA)

開催日時：2022年8月2日(火) 14:00~16:00

場所：オンライン (Zoom)

参加者：教員26名(名簿20名+尾道東高校3名+広島県教育委員会1名+ALT2名)

スタッフ：大阪公立大学、PDA認定教育ジャッジ

(1) 話すこと [やり取り]	論理・表現Ⅰ	論理・表現Ⅱ	論理・表現Ⅲ
目標	イ 日常的な話題や社会的な話題について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、 多くの支援 を活用すれば、 ディベート やディスカッションなどの活動を通して、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、 基本的な語句や文 を用いて、意見や主張などを 論理の構成や展開 を工夫して話して伝え合うことができるようにする。	イ 日常的な話題や社会的な話題について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、 一定の支援 を活用すれば、 ディベート やディスカッションなどの活動を通して、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、 多様な語句や文 を用いて、意見や主張、 課題の解決策 などを 論理の構成や展開 を工夫して 詳しく 話して伝え合うことができるようにする。	イ 日常的な話題や社会的な話題について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、 支援をほとんど活用しなくても 、 ディベート やディスカッションなどの活動を通して、 複数の資料を活用 しながら、多様な語句や文を 目的や場面、状況などに応じて適切 に用いて、意見や主張、 課題の解決策 などを、 聞き手を説得できるように 、 論理の構成や展開 を工夫して詳しく話して伝え合うことができるようにする。
内容	(イ) 日常的な話題や社会的な話題に関して聞いたり読んだりした内容について使用する語句や文、やり取りの具体的な進め方が十分に示される状況で、優れている点や改善すべき点を話して伝え合ったり、意見や主張などを適切な 理由や根拠とともに伝え合う ディベートやディスカッションをする活動。また、やり取りした内容を踏まえて、自分自身の考えなどを整理して発表したり、文章を書いたりする活動。	(イ) 日常的な話題や社会的な話題に関して聞いたり読んだりした内容について 必要に応じて 、使用する語句や文、やり取りの具体的な進め方が示される状況で 課題を明確に説明し、その解決策を提案し合ったり 、意見や主張、 課題の解決策などを適切な理由や根拠とともに詳しく伝え合ったり するディベートやディスカッションをする活動。また、やり取りした内容を踏まえて、自分自身の考えなどを整理して発表したり、文章を書いたりする活動。	(イ) 日常的な話題や社会的な話題に関して聞いたり読んだりした内容について 質疑応答をしたり、聞き手を説得 することができるよう、 ニュースや新聞記事などの複数の資料を活用 して、意見や主張、 課題の解決策 などを効果的な理由や根拠とともに詳しく伝え合ったりする ディベート やディスカッションをする活動。また、やり取りした内容を踏まえて、自分自身の考えなどを、整理して発表したり、文章を書いたりする活動
内容	一段落を書くことなどを通して、論理の構成や展開を工夫して伝え合う。	複数の段落から成る文章を書くことなどを通して論理の構成や展開を工夫して、詳しく伝え合う。	複数の段落から成る文章を書くことなどを通して論理の構成や展開を工夫して、説得できるように詳しく伝え合う。

※ディベート等での指導目標

※学習指導要領第1章総説より

授業でできる即興型英語ディベートの紹介を PDA 代表・中川より行った後、事前に PDA ルール動画を視聴された先生方と共に、即興型英語ディベート特有の大事なルール POI (Point of Information: 双方の議論を深めるために、相手チームが話している途中に質疑応答をするシステム) の練習を行い、早速実践①の論題が発表されました。

実践①の様子

論題発表後の準備時間（15 分間）を使い、論題を肯定/否定する理由を考え、チーム内で話し合い自分たちのポイントを2つ決めます。あっという間に15分が経過します。実際のラウンドでは、相手チームのスピーチに熱心に聞き入り、相槌を打つ先生や、実体験を具体例として分かりやすく描写される先生、そして、早速 POI も飛び交い、相手チームのポイントの再確認や、自分たちの反論の布石となる指摘などがされました。



アイコンタクトもばっちり

ラウンド後は、PDA のジャッジから、（1）勝敗（2）勝敗の理由（3）1人1人への個人コメント（良かった点と改善点）が述べられます。生徒たちの学びのために、授業で行う際に想定される様々な疑問点を PDA ジャッジに積極的に質問され、またジャッジコメントを真剣にメモされる先生方の姿が印象的です。



ラウンド後は、感謝の気持ちを込めて、対戦相手とエア握手

実践②の様子

否定側が肯定側として準備をしてしまうハプニングがあり、急遽 1 分間で準備をし直すテーブルもありましたが、実践①でジャッジから受けたフィードバックを、早速スピーチにいかした実践②となりました。様々なポイントや意見が述べられる中、論題内の単語にしっかりと立ち返り、相手チームの分析に効果的な反論を展開すると、すかさず、相手チームはさらなるアイデアでポイントを立て直し、議論を深めていく等、非常に白熱したラウンドとなりました。

実践②でベストディベーターに選ばれた先生方からは、「すごく緊張した。焦りながら、頭を使い色々考えた。終わった後に、もっとこう言えたら良かった、この単語も使えそうだ、等の気づきがあった。」、「PDA ジャッジの個人コメントが、自分自身の勉強になった。」、「ディベート授業をする際に、どのように生徒を指導したら良いのか、と思っていたが、PDA ジャッジの個人コメントのような、教育的なフィードバックをすればよいのだと分かり、良かった。」と、感想が述べられました。中川代表より、PDA 即興型英語ディベートの活動を通して、次の学びに繋がる生徒の変容が起こりやすいこと、また高校生にとって、先生から直接褒めてもらう機会や、具体的な助言をもらえる機会でもあり、生徒が自分で考えて意見を述べる貴重な機会であることが述べられました。

最後に、安芸府中高等学校校長の高橋真先生より、「今回の研修で得られた先生方の成功体験を、生徒に還元していただきたい。」との激励のお言葉で研修会が締めくくられました。



安芸府中高等学校・高橋真校長より

参加された先生方の声（アンケートより抜粋）

- 大変よかった。今までディベートやってみたかったけど機会がなかったので、大変勉強になりました。今まで生徒にディベートをさせてみたかったのですが見識がなく、自分で勉強するのも億劫になっていました。今回きっかけになったので、まずは授業からトライしてみたいと思います。ありがとうございました。
- 実践的だったため大変よかった。生徒への個人コメントのバラエティを増やします。
- 即興型ディベートの体験を通して、生徒にさせる方法、させるときに注意したいことを学ぶことができた。個人コメントをいただくと、もっと頑張っほほかの人みたいに言ってもらえるようになりたいなと思えました。ありがとうございました。
- ディベートを体験することで、生徒に指導する際のヒントになり、大変良かった。初めての経験で、とても緊張しました。相手チームの内容を聞きながらキーワードをメモして、自分の主張につなげていくのは非常に難しかったです。高校で実践する時には、難易度の低いテーマをうまく選んで回数を重ねるとよいと思いました。
- ディベート研修が大変良かったです。私自身が苦手なディベート、授業でもハードルが高くて実践に踏み出せないディベートですが、このような研修に参加することで少しずつ苦手が克服できているような気がします。このような機会を作ってくださいありがとうございます。
- 実際に体験することで、目の前の生徒にどのようにすれば対応できそうかを考えることができました。10年以上ぶりにディベートをやって、昔を思い出しました。根拠を調べて引用しながら行うスタイルだったので、即興ディベートは最初は慣れませんが、第三者を納得する話しぶりについてとくに学ぶことが多かったです。ありがとうございました。

ベストディベーターに選ばれた皆さん（順不同）

溝田開先生（2回）、手島英華先生（2回）、
小崎靖子先生（2回）、時川直子先生（2回）、
馬田正義先生、村田秀一先生、中本真吾先生、アン先生

POI賞に選ばれた皆さん（順不同）

溝田開先生、手島英華先生

ディベートのルール

(1) 概要

ある 1 つの論題が与えられ、肯定側チーム(Government)と否定側チーム(Opposition)に分かれ、一般聴衆であるジャッジを説得する。肯定側か否定側かは主催者によって決められ、ディベータ自身で選ぶことはできない。より説得力(議論の中身, 説明の仕方など)があったチームが勝ちとなる。

(2) ディベータの人数

各チーム 3 名の計 6 名。それぞれの役割名と内容を図 1 に示す。

(3) 準備時間 (Preparation Time)

15 分

(4) スピーカの順番, 時間

スピーチの順番は図 1 の矢印の通りである。スピーチ時間は、3 分または 2 分である。ただし、前後 30 秒は許容範囲である。ジャッジはスピーチの終了時間の 30 秒前に 1 回ノック、スピーチ終了時間に 2 回ノック、終了時間 30 秒後にはノックをし続ける。(例えば、3 分のスピーチであれば、2:30 で 1 回ノック、3:00 で 2 回ノック、3:30 でノック継続)

スピーカとスピーカの間には、準備時間はない。スピーカはジャッジに呼ばれれば、速やかに演台に移動する。

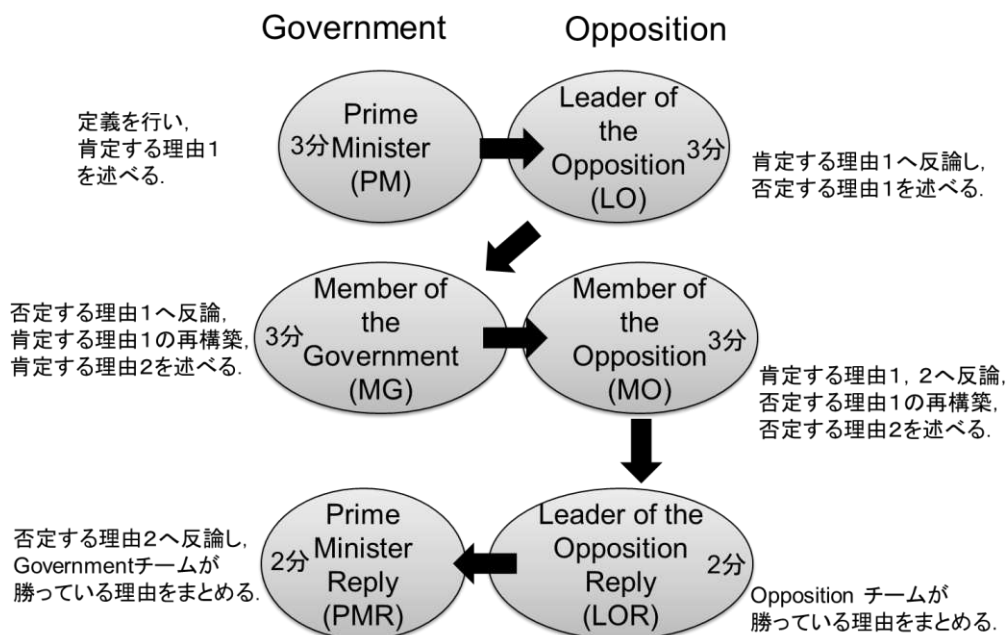


図 1 ディベート概略図

(5) スピーチ内容

最初の 4 つのスピーチを Constructive Speech (立論), 後の 2 つのスピーチを Reply Speech (まとめ) という。Constructive Speech ではどのような論点を述べてもよいが, 基本的に Reply Speech では, Constructive Speech で述べていない新しい論点は出せない。

(6) 質疑応答 (POI, Point of Information)

相手チームのスピーチ中に, 質問やコメントを 15 秒以内で発言することができる。それを Point of Information (POI) といい, "On the point, sir" や "POI" などと声をかけ, 質問する。質問を受けるか否かは, スピーカが決めることができ, 受ける場合は "Yes, please.", 受けない場合は "No thank you." などのように答える。

なお, POI はいつ行ってもよい。ただし, POI をして一旦断られた場合は, その 15 秒後以降から再度 POI をすることができる。POI の間もストップウォッチの時間は止めない。

(7) ディベート終了後

ディベートラウンドが終了すれば, 対戦相手と握手を交わす。

(8) ジャッジ

ジャッジは, 新聞を読んでいれば分かる一般的な知識を持つ人と想定する。個人的な考え, 専門知識, 偏見をできるだけ排除し, 客観的に判定する。基準は主に「内容」と「表現」の 2 つである。

<内容>

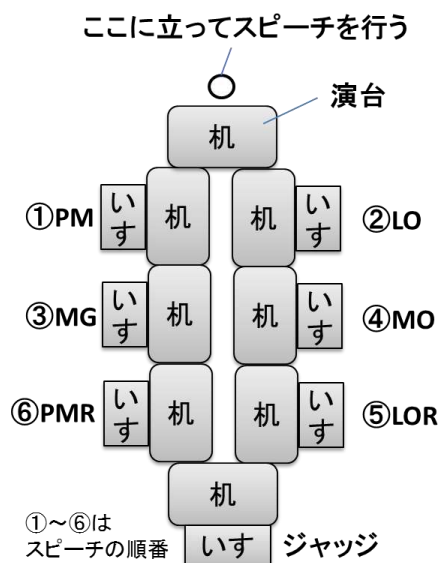
- 主張に理由があったか
- 反論があったか
- 例やデータを用いて, 十分に説明をしているか
- POI で積極的に議論しているか

<表現>

- はっきりと分かりやすい言葉で話しているか (声の大きさ, スピード, アイコンタクト, 身振り手振りなど)
- 構成は分かりやすいか (論点の順番, ナンバリング, サインポスト)
- スピーカの役割を果たしているか

(9) その他

- スピーチは前で立って行う。
- スピーチ中は, チームメイトと話せない。
- POI を行う時は立つ。断られれば座る。
- スピーカの順番は, 論題発表前に決めておく。



スピーチシート

Prime Minister (PM) (肯定側 1 番目)

挨拶 Hello everyone.

お題 Today's topic is

論題を記入する

定義 We define that

定義を必要とする
事柄があれば定義
する

肯定ポイントの数の確認 We have two points.

肯定ポイント 1 の名前 The 1st point is

肯定ポイント 1 の
題名を記入する

肯定ポイント 2 の名前 The 2nd point is

肯定ポイント 2 の
題名を記入する

肯定ポイント 1 の説明 I will explain the 1st point

肯定ポイント 1 の
題名を記入する

We believe that

肯定ポイント 1 の
具体的な説明を記
入する

論題を記入する
(肯定)

結論 Therefore,

終わりの挨拶 Thank you.

Leader of the Opposition (LO) (否定側 1 番目)

挨拶 Hello everyone.

否定側の方針確認 We believe that

論題の否定文を記入する

肯定ポイント 1 への反論 Let me rebut what the Government team said.

They said

PM で述べられた肯定ポイント 1 を記入する

However,

肯定ポイント 1 への反論を記入する

Therefore,

肯定ポイント 1 が成立しないという結論を記入する

否定ポイントの数の確認 Next, let me explain our points. We have two points.

否定ポイント 1 の名前 The 1st point is

否定ポイント 1 の題名を記入する

否定ポイント 2 の名前 The 2nd point is

否定ポイント 2 の題名を記入する

否定ポイント 1 の説明 I will explain the 1st point

否定ポイント 1 の題名を記入する

We believe that

否定ポイント 1 の具体的な説明を記入する

結論 Therefore,

論題の否定を記入する

終わりの挨拶 Thank you.

Member of the Government (MG) (肯定側 2 番目)

挨拶 Hello everyone.

肯定側の方針確認 We believe that

[Blank box for affirmative policy confirmation]

論題を記入する (肯定)

否定ポイント 1 への反論 Let me rebut Opposition's 1st point.

They said

[Blank box for rebuttal to opposition point 1]

LO で述べられた 否定ポイント 1 を 記入する

However,

[Blank box for rebuttal to opposition point 1]

否定ポイント 1 へ の反論を記入する

Therefore,

[Blank box for rebuttal to opposition point 1]

否定ポイント 1 が 成立しないという 結論を記入する

肯定ポイント 1 の立て直し Next, let me reconstruct Government's 1st point.

They said

[Blank box for reconstruction of government point 1]

肯定ポイント 1 に 対し、LO で述べら れた反論を記入す る

However,

[Blank box for reconstruction of government point 1]

上記反論を踏ま え、肯定ポイント 1 が成立する理由を 記入する

Therefore,

[Blank box for reconstruction of government point 1]

肯定ポイント1が 成立するという結 論を記入する

肯定ポイント 2 の説明 Then, let me explain our 2nd point,

[Blank box for explanation of affirmative point 2]

肯定ポイント 2 の 題名を記入する

We believe that

[Large blank box for explanation of affirmative point 2]

肯定ポイント 2 の 具体的な説明を記 入する

結論 Therefore,

[Blank box for conclusion]

論題を記入する (肯定)

終わりの挨拶 Thank you.

Member of the Opposition (MO) (否定側 2 番目)

挨拶 Hello everyone.

否定側の方針確認 We believe that

[Empty box for MO's policy confirmation]

論題の否定文を記入する

肯定ポイント 1 への反論 Let me rebut Government's 1st point.

They said

[Empty box for Government's 1st point]

MG(または PM)で述べられた肯定ポイント 1 を記入する

However,

[Empty box for rebuttal to Government's 1st point]

上記意見を踏まえ、肯定ポイント 1 への反論を記入する

Therefore,

[Empty box for conclusion of rebuttal to Government's 1st point]

肯定ポイント 1 が成立しないという結論を記入

肯定ポイント 2 への反論 As for Government's 2nd point.

They said

[Empty box for Government's 2nd point]

MG で述べられた肯定ポイント 2 を記入する

However,

[Empty box for rebuttal to Government's 2nd point]

肯定ポイント 2 への反論を記入する

Therefore,

[Empty box for conclusion of rebuttal to Government's 2nd point]

肯定ポイント 2 が成立しないという結論を記入する

否定ポイント 1 の立て直し Next, let me reconstruct Opposition's 1st point.

They said

[Empty box for Opposition's 1st point]

否定ポイント 1 に対し、MG で述べられた反論を記入する

However,

[Empty box for reconstruction of Opposition's 1st point]

上記反論を踏まえ、否定ポイント 1 が成立する理由を記入する

Therefore,

[Empty box for conclusion of reconstruction of Opposition's 1st point]

否定ポイント 1 が成立するという結論を記入する

否定ポイント 2 の説明 Then, let me explain our 2nd point,

[Empty box for MO's 2nd point explanation]

否定ポイント 2 の題名を記入する

We believe that

[Large empty box for MO's 2nd point explanation]

否定ポイント 2 の具体的な説明を記入する

結論 Therefore,

[Empty box for MO's conclusion]

論題の否定を記入する

終わりの挨拶 Thank you.

Leader of the Opposition Reply (LOR) (否定側まとめ)

挨拶 Hello everyone.

否定側の方針確認 We believe that

論題の否定文
を記入する

ディベートのまとめ Let me summarize today's debate.

最も重要なこと The most important point is

最も重要な点
を記入する

肯定側の意見 On this point, their idea is

最も重要な点
に関する肯定
側の意見を記
入する

否定側の意見が優れている理由 However, our argument is superior.

It is because

否定側の意見
の方が優れて
いる理由を記
入する

結論 Therefore,

論題の否定を
記入する

終わりの挨拶 Thank you.

----- メモ -----

【肯定ポイント 1】

【否定ポイント 1】

【肯定ポイント 2】

【否定ポイント 2】

肯定ポイント
1, 2
否定ポイント
1, 2 の題名を
記入する

Prime Minister Reply (PMR) (肯定側まとめ)

挨拶 Hello everyone.

肯定側の方針確認 We believe that

論題を記入する(肯定)

否定ポイント 2 への反論 First, let me rebut Opposition's 2nd point.

They said

However,

Therefore,

MO で述べられた否定ポイント 2 を記入する

否定ポイント 2 への反論を記入する

否定ポイント 2 が成立しないという結論を記入する

ディベートのまとめ Then, I will summarize today's debate.

最も重要なこと The most important point is

最も重要な点を記入する

否定側の意見 On this point, their idea is

最も重要な点に関する否定側の意見を記入する

肯定側の意見が優れている理由 However, our argument is superior.

It is because

肯定側の意見の方が優れている理由を記入する

結論 Therefore,

論題を記入する(肯定)

終わりの挨拶 Thank you.

----- メモ -----

【肯定ポイント 1】

【肯定ポイント 2】

【否定ポイント 1】

【否定ポイント 2】

肯定ポイント 1, 2
否定ポイント 1, 2 の題名を記入する

ブレストシート

※ 論題が発表される前に、スピーチする順序を決めておきましょう。

<プレパ時間の使い方 目安>

Government の場合	Opposition の場合
0～1 分: 論題の共通理解と定義の設定	0～1 分: 論題の共通理解と定義の予想
1 分～4 分: 各自でアイデアを出す(☆)	1 分～4 分: 各自でアイデアを出す(☆)
4 分～7 分: アイデアを発表, 話し合う	4 分～7 分: アイデアを発表, 話し合う
7 分～8 分: 2つの論点(肯定する理由)に分ける	7 分～8 分: 2つの論点(否定する理由)に分ける
8 分～15 分: 各自でスピーチを作る	8 分～15 分: 各自でスピーチを作る
<p>PM: 定義, 肯定ポイント 1 のスピーチ準備 MG: 肯定ポイント 2 の準備(と否定ポイントの予想, 反論の列挙) PMR: 肯定ポイント 1, 2 の理解, 否定ポイントの予想, 反論の列挙, 争点の予想</p>	<p>LO: 否定ポイント 1 の準備(と肯定ポイントの予想, 反論の列挙) MO: 否定ポイント 2 の準備(と肯定ポイントの予想, 反論の列挙) LOR: 否定ポイント 1, 2 の理解, 肯定ポイントの予想, 反論の列挙, 争点の予想</p>

☆1 論題の単語の分析

☆2 論題に関する事柄を中心に, アイデアを放射状に伸ばす

論題: _____

ポイント名①: _____

ポイント名②: _____

ブレストシート

※ 論題が発表される前に、スピーチする順序を決めておきましょう。

<プレパ時間の使い方 目安>

Government の場合	Opposition の場合
0~1 分: 論題の共通理解と定義の設定	0~1 分: 論題の共通理解と定義の予想
1 分~4 分: 各自でアイデアを出す(☆)	1 分~4 分: 各自でアイデアを出す(☆)
4 分~7 分: アイデアを発表, 話し合う	4 分~7 分: アイデアを発表, 話し合う
7 分~8 分: 2つの論点(肯定する理由)に分ける	7 分~8 分: 2つの論点(否定する理由)に分ける
8 分~15 分: 各自でスピーチを作る	8 分~15 分: 各自でスピーチを作る
PM: 定義, 肯定ポイント 1 のスピーチ準備 MG: 肯定ポイント 2 の準備(と否定ポイントの予想, 反論の列挙) PMR: 肯定ポイント 1, 2 の理解, 否定ポイントの予想, 反論の列挙, 争点の予想	LO: 否定ポイント 1 の準備(と肯定ポイントの予想, 反論の列挙) MO: 否定ポイント 2 の準備(と肯定ポイントの予想, 反論の列挙) LOR: 否定ポイント 1, 2 の理解, 肯定ポイントの予想, 反論の列挙, 争点の予想

☆1 論題の単語の分析

☆2 論題に関する事柄を中心に、アイデアを放射状に伸ばす

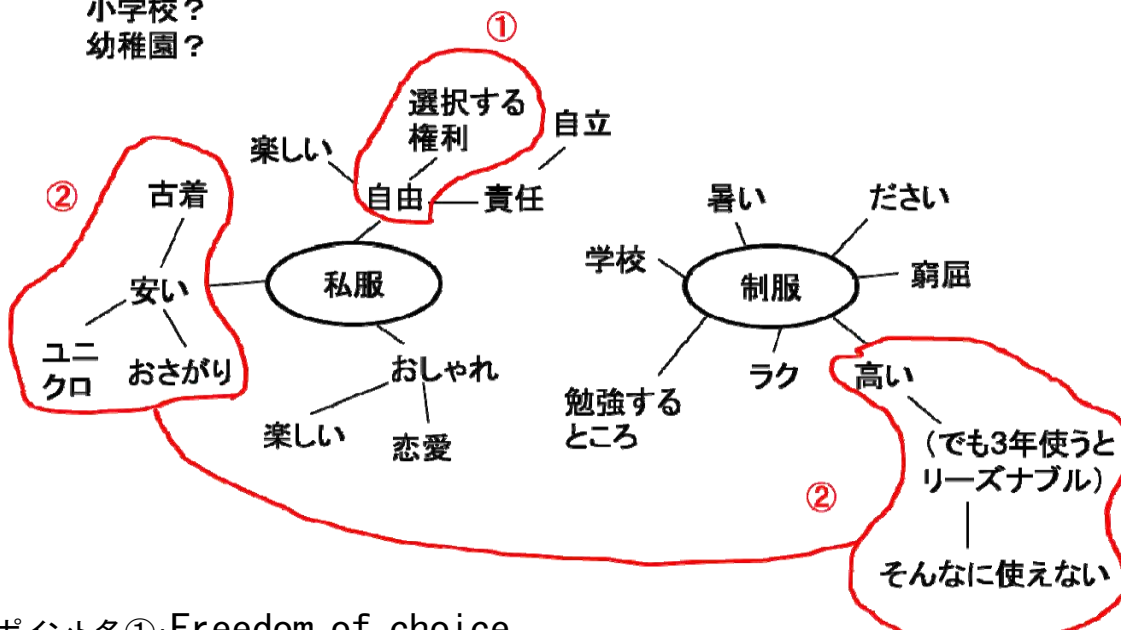
論題: We should abolish school uniforms

日本の高校?
中学校?
小学校?
幼稚園?

廃止する

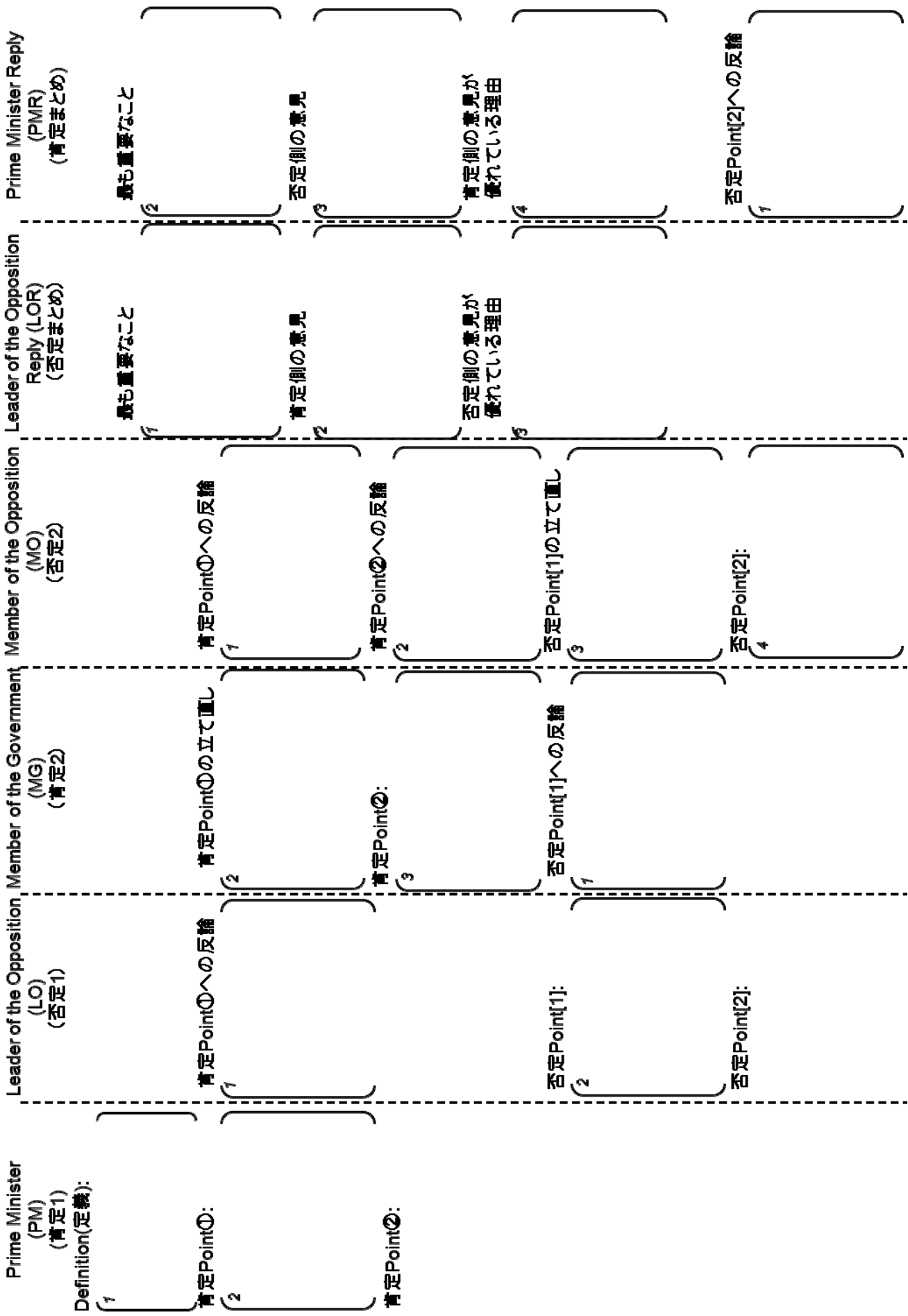
学校の制服

(Government の例)



ポイント名①: Freedom of choice

ポイント名②: Cost



チェアパーソンスクリプト

- Hello everyone. Today's topic is _____.
Now I welcome the Prime Minister to deliver a speech within 3 minutes.
_____ -san, please. (拍手)
- ↓
- Prime Minister speech, 3minutes
- ↓
- Thank you.
Now I welcome the Leader of the Opposition to deliver a speech within 3 minutes.
_____ -san, please. (拍手)
- ↓
- Leader of the Opposition speech, 3minutes
- ↓
- Thank you.
Now I welcome the Member of the Government to deliver a speech within 3 minutes.
_____ -san, please. (拍手)
- ↓
- Member of the Government speech, 3minutes
- ↓
- Thank you.
Now I welcome the Member of the Opposition to deliver a speech within 3 minutes.
_____ -san, please. (拍手)
- ↓
- Member of the Opposition speech, 3minutes
- ↓
- Thank you.
Now I welcome the Leader of the Opposition to deliver a reply speech within 2 minutes.
_____ -san, please. (拍手)
- ↓
- Leader of the Opposition Reply speech, 2minutes
- ↓
- Thank you.
Now I welcome the Prime Minister to deliver a reply speech within 2 minutes.
_____ -san, please. (拍手)
- ↓
- Prime Minister Reply speech, 2minutes
- ↓
- Thank you.
Now I close this round. Thank you for your cooperation. (拍手)
Please stand up and shake hands. (対戦チームメンバー全員との握手を促す)

令和4年7月1日

広島県高等学校教育研究会英語部会
関係高等学校長様
英語部会員様

広島県高等学校教育研究会英語部会
部会長 小野 裕之
(広島県立佐伯高等学校長)

第19回広島県高校生英語スピーチ・レシテーションコンテストの開催について

皆様には益々御清栄のこととお慶び申し上げます。日頃より本部会の活動に御協力をいただき、心より感謝申し上げます。

さて標題のコンテストを次の要領により開催しますので御案内申し上げます。できるだけ多くの生徒のみなさんが参加できるように積極的にお取り計らいをいただけますよう、よろしくお願い申し上げます。

実施要項

1 目的

- (1) 授業における音読活動の成果を発表する場を提供することにより、コミュニケーション能力の育成を図る。
- (2) 日常生活の身近な話題や幅広い話題について自分の考えなどを英語で発表する機会を提供することにより、コミュニケーション能力の育成を図る。

2 主催 広島県高等学校教育研究会英語部会

3 参加資格

(1) スピーチ部門

広島県の国公立高等学校および高等専門学校(1～3学年)などの学校に在学する生徒。
外国籍の生徒も参加できる。ただし、留学生は参加できない。

(2) レシテーション部門

- ① 広島県の国公立高等学校および高等専門学校(1～3学年)などの学校に在学する生徒。
英語を母語としない高校生で、大会当日までの過去3年間に海外在学期間が連続半年以内であること。
- ② 昨年のレシテーション部門で最優秀賞を獲得した生徒は今年度の同部門の参加はできない。

(3) スピーチ部門・レシテーション部門 共通

広島県高等学校教育研究会英語部会の会員が勤務している学校に在籍する生徒であること。
(未加入の場合は審査当日までに会員登録と会費の納入を完了してください。完了していない場合は審査除外となります。)

4 規定

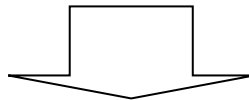
(1) スピーチ部門

- ① 主題「私の主張」に基づきタイトルは自由とする。
- ② 制限時間は4分30秒以上5分30秒以内とする。

(2) レシテーション部門

- ① 題材は生徒の該当学年の教科書（教材も含めて）を暗唱する。
 - ア. 高校1年生の部
英語コミュニケーションⅠの教科書を原則に選定すること。
尚、検定教科書であれば使用教科書以外からの選定も可。
 - イ. 高校2・3年生の部
コミュニケーション英語Ⅱまたはコミュニケーション英語Ⅲの教科書を原則に選定すること。
尚、検定教科書であれば使用教科書以外からの選定も可。
- ② 制限時間は3分以内とする。
但し、制限時間内であれば使用する教材を編集しても構わない。

5 応募方法 ①参加申し込み : 令和4年7月29日(金)までにメールで申し込む

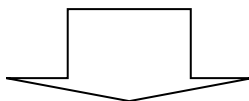


※メールに申し込み(エクセル)を添付して送付

送付先アドレス

s-kubotak861026@hiroshima-c.ed.jp
広島県立五日市高等学校内
英語部会事務局 久保田 早苗

- ② 8月1日～5日を目安に事務局から参加校の担当者メールアドレスに音声データの提出方法について通知が届く。



- ③ 音声データ(CD)の提出 : 令和4年8月26日(金)までに

- CD郵送の場合 → 五日市高校へ郵送する
- 音声データの場合 → 通知に示された Google ドライブへアップロードする

* 県立学校以外で参加される場合は以下のリンク先にデジタル版の要項や申込書をシェアしていますので、ご活用ください。

【英語部会事務局 Google ドライブ】



https://drive.google.com/drive/folders/1_7YEHJwkWwJMrnrm08KTo72YX1d0p_yl8?usp=sharing

6 応募上の留意点

(1) 英文原稿の様式について

A 4用紙縦，中央にタイトル，タイトル下の右側に部門名・学校名・学年・氏名・年齢および性別を全て記入し，さらにローマ字で氏名を書きそえること。

(例)	(タ	イ	ト	ル)
				スピーチの部
				〇〇立△△高等学校
				1年・英語太郎・16歳・男
				EIGO, Taro

(2) 録音について（音源）

録音は最初に学年・氏名・タイトルを読んでから原稿に入る。

【Google ドライブに提出する場合】

英語部会事務局 Google ドライブの「第 19 回スピーチ・レシテーションコンテスト録音提出」フォルダにそれぞれスピーチ部門，レシテーション部門高校 1 年生の部，レシテーション部門高校 2，3 年生の部に分けて提出する。なお，ファイル名は部門名・学校名・学年及び氏名を明記する。注意：明記されていない場合は，審査の対象外となります。

【CD で郵送する場合】

音声データは CD で提出する場合，各学校で，スピーチ部門，レシテーション部門高校 1 年生の部，レシテーション部門高校 2，3 年生の部ごとに 1 枚とする。

① 参加者ごとにトラックを分ける。

② CD は順番がわかるように明記する。（チャプターを明記）

ファイル名は部門名・学校名・学年及び氏名を明記する。

注意：明記されていない場合は，審査の対象外となります。

(3) 応募数について

スピーチ部門，レシテーション部門 1 年生の部，レシテーション部門 2・3 年生の部ごとに，それぞれ 1 校 5 名までとする。

(4) 応募された CD，音声データは返却しない。

(5) 本選で最優秀賞・優秀賞を獲得したスピーチ部門英文原稿は，英語部会会誌に掲載される。

7 予選・本選について

(1) 予選

- 1 期日 令和 4 年 9 月 2 日（金）16:00～16:45
- 2 会場 広島県立五日市高等学校
〒 731-5157 広島県広島市佐伯区観音台 3 丁目 15- 1
TEL 082-923-4181 FAX 082-922-9681
- 3 選考 各校からの音声データ及び英文原稿をもとに選考委員が行う。

4 審査基準

(1) スピーチ部門

社会問題を提起し、積極的な意見の主張であることを基本に、発音や抑揚を総合的に判断する。

・本選決定について

原稿と音源により **10名の本選の出場者を選出**する。

(2) レシテーション部門

発音や抑揚，デリバリーを中心に総合的に判断する。

・本選決定について

原稿と音源により1年生の部と2・3年生の部からそれぞれ **10名の本選出場者を選出**する。

但し、本選に出場できるのは、スピーチ部門，レシテーション部門1年生の部，レシテーション部門2・3年生の部ごとに，**1校2名まで**とする。

5 通知 予選審査結果と正式な本選案内は9月9日（金）前後に学校に通知する。

(2) 本選

1 期日 令和4年9月18日（日）

2 会場 広島県立五日市高等学校

〒731-515 広島県広島市佐伯区観音台3丁目15-1

TEL 082-923-4181 FAX 082-922-9681

3 日程（予定）

<レシテーション部門>

受付 10:00 ~ 10:30

1年生の部発表 10:30 ~ 11:20

2・3年生の部発表 11:20 ~ 12:10

<スピーチ部門>

受付 13:00 ~ 13:30

発表 13:30 ~ 14:50

8 表彰

※本選の結果は9月30日（金）前後に学校に通知する。

○スピーチ部門

最優秀賞（1名） 優秀賞（1名） 優良賞（2名） 敢闘賞（3名）

○レシテーション部門（1年生の部，2・3年生の部，それぞれに）

最優秀賞（1名） 優秀賞（1名） 優良賞（2名） 敢闘賞（3名）

○学校優良賞（参加校の中から優れた作品を出品した学校）

9 中国大会について

スピーチ部門の上位2名は中国地区大会に出場する権利を得る。ただし，2名の内少なくとも1名は，次の（1）～（3）のいずれにも該当しない者とする。

（1）満5歳の誕生日以後に，通算1年以上または継続して6ヶ月以上，英語圏（英語を第一言語，公用語，または公用語に準ずる言語として使用する国，地域）に居住した者。 ※英語圏詳細については別途，全英連ホームページに掲載され

る。

- (2) 日本国内、海外を問わず、6ヶ月以上、英語以外の教科に関し、実態として英語による教育を行っている学校（アメリカン・スクール、インターナショナル・スクール、または授業科目の半分以上を英語で教育を行っている学校を含む）に在籍し、その教育を受けたことのある者。
- (3) 満5歳の誕生日以後に、保護者または同居親族に、英語を母語とする者、もしくは英語圏出身の者がいる場合。

大会名：第15回中国地区高等学校英語スピーチコンテスト兼第15回全国高等学校英語スピーチコンテスト中国ブロック予選

（日時と会場は現在の段階で未定ですが、分かり次第ご連絡します）

10 その他

昨今の状況を踏まえ本選は規模を縮小して実施し、観戦はご遠慮いただきます。

（問い合わせ先）

〒 731-5157

広島県立五日市高等学校 内

英語部会事務局 第19回広島県高校生スピーチ・レシテーションコンテスト 係
担当 洪 美律

アドレス m-honk880292@hiroshima-c.ed.jp

TEL 082-923-4181 FAX 082-922-9681

THE 19TH ANNUAL ENGLISH SPEECH & RECITATION CONTEST

for high school students in Hiroshima

RECITATION FOR THE 1ST YEAR STUDENTS

No.	NAME	SCHOOL	YEAR	TITLE
1	崎谷 日向子	広島県立尾道北高等学校	1	The Power of Vision and Hard Work
	SAKITANI Hinako			
2	藤原 千尋	広島県立三次高等学校	1	Information Please
	FUJIWARA, Chihiro			
3	竹原 深月	広島大学附属福山高等学校	1	Scidmore's Cherry Trees
	TAKEHARA, Mizuki			
4	中村 乃碧	広島県立廿日市高等学校	1	Christian the Lion
	NAKAMURA, Noa			
5	村上 さゆり	広島県立安芸府中高等学校	1	The Jar of Life
	MURAKAMI, Sayuri			
6	渡邊 真優	広島県立高陽高等学校	1	A Journey to Peace
	WATANABE, Mayu			
7	石飛 陽彩	広島県立廿日市高等学校	1	Scidmore's Cherry Trees
	ISHITOBI, Hihiro			
8	前田 みのり	広島県立三次高等学校	1	Information Please
	MAEDA, Minori			

RECITATION FOR THE 2ND & 3RD YEAR STUDENTS

No.	NAME	SCHOOL	YEAR	TITLE
1	中田 美綺	広島大学附属高等学校	2	A Teenager To Change the World
	NAKATA, Miki			
2	中常 陽	広島県立大門高等学校	2	The Gift of the Magi
	NAKATSUNE, Hinata			
3	今田 亜衣実	広島県立世羅高等学校	3	A Lucky Child
	IMADA, Aimi			
4	ロドリゲス クリスティーナ	広島県立広高等学校	2	My Education, My Future
	RODRIGUES, Cristina			
5	濱本 光冴	広島県立尾道北高等学校	2	Humming Through My Fingers
	HAMAMOTO Koga			
6	秦 茉優	ノートルダム清心高等学校	2	Building Your Life With Passion
	HATA, Mayuu			
7	春元 桃菜	広島県立五日市高等学校	2	A Letter to Italy
	HARUMOTO, Momona			
8	加藤 光	広島県立尾道北高等学校	2	The Freedom to Be Yourself
	KATO Hikari			
9	伊崎 友梨	広島県立五日市高等学校	2	A Letter to Italy
	IZAKI, Yuuri			
10	土肥 葉月	広島大学附属高等学校	2	Beyond Words
	TOHI, Hazuki			

SPEECH

No.	NAME	SCHOOL	YEAR	TITLE
1	岩本 瑠依	ノートルダム清心高等学校	1	What Students Really Need.
	IWAMOTO, Rui			
2	高見 真央	広島大学附属福山高等学校	1	True Peace
	TAKAMI, Mao			
3	奥河 友梨	広島県立尾道東高等学校	2	Respect Both Other People and Yourself
	OKUGAWA, Yuri			
4	宮川 桃香	広島県立広島叡智学園	1	A New Issue of Olympics and Paralympics
	MIYAGAWA, Momoka			
5	石橋 七海	広島県立尾道東高等学校	2	Let's Focus on the Hidden People
	ISHIBASHI, Natsumi			
6	青木 真耶	広島県立安芸府中高等学校	2	PEACE
	AOKI, Maya			
7	アブラザ アイビー	広島県立竹原高等学校	3	Our Only Hope
	ABLAZA, Ivy			
8	高塚 千尋	広島大学附属福山高等学校	1	The Power of Face-to-Face Interaction
	TAKATSUKA, Chihiro			
9	三上 蘭	広島県立広島高等学校	2	To know others and have sympathy towards them
	MIKAMI, Ran			
10	原口 絢	広島大学附属福山高等学校	1	Can you ask for help?
	HARAGUCHI, Aya			

お知らせ

●第15回中国地区高等学校英語スピーチコンテスト（全国大会予選）

開催日時: 令和4年11月19日(土)13:00～

場所: オンライン(Zoom)による開催

●第15回全国高等学校英語スピーチコンテスト

開催日時: 令和5年2月5日(日)

場所: オンライン(Zoom)による開催

●第14回広島県高校生英語ディベート大会兼全国大会予選会

論題: Resolved: That the Japanese Government should abolish the mandatory retirement age systems.

日本政府は、定年制を廃止すべきである。是か非か。

開催日時: 令和4年10月30日(日)9:00～

場所: 広島県立五日市高等学校

第 19 回広島県高校生英語スピーチ・レシテーションコンテスト

- 1 本選実施日 令和4年10月1日(土) ※台風のため9月18日(日)の開催を延期
- 2 発表者 広島県内の高校生 28名
(コンテストに応募した22校94名から一次審査により選出)
- 3 場所 広島県立五日市高等学校
- 4 審査員 三熊 祥文 広島工業大学 教授
山崎 愛子 広島県教育委員会高校教育指導課 指導主事
クロエ・ガスト 広島県立祇園北高等学校 外国語指導助手

5 コンテストの概要報告

第19回広島県高校生英語スピーチ・レシテーションコンテストの本選が、令和4年10月1日(土)に広島県立五日市高等学校にてオンラインで行われました。スピーチ部門とレシテーション部門を合わせて22校、計94名の応募者の中から、一次審査により選出された28名(各部門10名ずつ、うち2名が棄権)が参加しました。審査員として、広島工業大学三熊祥文教授、広島県教育委員会山崎愛子指導主事、広島県祇園北高等学校クロエ・ガスト外国語指導助手をお招きしました。

今年度も新型コロナウイルス感染症対策として、オンライン開催でしたが、参加した生徒たちは日ごろの練習の成果を遺憾なく発揮しました。審査委員長である三熊教授からは、「レシテーション部門に関して言えば、発音が英語のネイティブスピーカーに近いかどうかは必ずしも重要ではなく、自分の英語を聞き手に聞かせ、理解させることができるかどうかの方が重要だと思います。今回の参加者の皆さんは、その点がよく達成できていたと思います。さらに、努力すべき点を挙げるとすると、ボディラングージやデリバリーではないでしょうか。スピーチ部門に関して言えば、誰のためのスピーチなのかを考えて準備することが重要です。世の中で起きていることに対して自分の意見を述べることに留まらず、問題解決のための説得力のあるスピーチを会場に集まった聴衆に向けて話すことが求められます。説得力のあるスピーチとは、今、あなたの話を聞いている聞き手の考えや態度や行動を変えることです。その点を明確にすることができれば、スピーチの組み立て方も変化してきます。」などといったアドバイスをいただきました。

今後より多くの方々に参加をしていただき、本コンテストがさらに盛り上がっていくことを期待します。
(報告：広島県立五日市高等学校 洪 美律)



スピーチ部門最優秀賞
アブラザ アイビーさん(竹原高校)



スピーチ部門優秀賞
石橋 七海さん(尾道東高校)

6 結果

第19回広島県高校生英語スピーチ・レシテーションコンテスト審査結果

広島県高等学校教育研究会英語部会
 部会長 小野 裕之
 (広島県立佐伯高等学校長)

レシテーション部門 1年生の部

	NAME	SCHOOL	YEAR	TITLE
最優秀賞	村上 さゆり	広島県立安芸府中高等学校	1	The Jar of Life
優秀賞	石飛 陽彩	広島県立廿日市高等学校	1	Scidmore's Cherry Trees
優良賞	崎谷 日向子	広島県立尾道北高等学校	1	The Power of Vision and Hard Work
優良賞	渡邊 真優	広島県立高陽高等学校	1	A Journey to Peace
敢闘賞	藤原 千尋	広島県立三次高等学校	1	Information Please
敢闘賞	竹原 深月	広島大学附属福山高等学校	1	Scidmore's Cherry Trees
敢闘賞	中村 乃碧	広島県立廿日市高等学校	1	Christian the Lion
敢闘賞	前田 みのり	広島県立三次高等学校	1	Information Please

レシテーション部門 2・3年生の部

	NAME	SCHOOL	YEAR	TITLE
最優秀賞	土肥 葉月	広島大学附属高等学校	2	Beyond Words
優秀賞	中田 美綺	広島大学附属高等学校	2	A Teenager To Change the World
優良賞	中常 陽	広島県立大門高等学校	2	The Gift of the Magi
優良賞	秦 茉優	ノートルダム清心高等学校	2	Building Your Life With Passion
敢闘賞	ロドリゲス クリスティーナ	広島県立広高等学校	2	My Education, My Future
敢闘賞	濱本 光牙	広島県立尾道北高等学校	2	Humming Through My Fingers
敢闘賞	加藤 光	広島県立尾道北高等学校	2	The Freedom to Be Yourself

スピーチ部門

	NAME	SCHOOL	YEAR	TITLE
最優秀賞	アブラザ アイビー	広島県立竹原高等学校	3	Our Only Hope
優秀賞	石橋 七海	広島県立尾道東高等学校	2	Let's Focus on the Hidden People
優良賞	高見 真央	広島大学附属福山高等学校	1	True Peace
優良賞	奥河 友梨	広島県立尾道東高等学校	2	Respect Both Other People and Yourself
敢闘賞	岩本 瑠依	ノートルダム清心高等学校	1	What Students Really Need.
敢闘賞	高塚 千尋	広島大学附属福山高等学校	1	The Power of Face-to-Face Interaction
敢闘賞	原口 絢	広島大学附属福山高等学校	1	Can you ask for help?
奨励賞	宮川 桃香	広島県立広島観智学園	1	A New Issue of Olympics and Paralympics
奨励賞	青木 真耶	広島県立安芸府中高等学校	2	PEACE
奨励賞	三上 蘭	広島県立広島高等学校	2	To know others and have sympathy towards them

※同一の賞内では出場順に表記しています。

学校優良賞

広島大学附属福山高等学校

さて、それでは本日の発表者の皆様に申し上げます。素晴らしいパフォーマンスでした。私たち3人の審査員も、皆さんが一生懸命にオーラルワークに取り組んだことに感動を覚えました。

レシテーション部門に関して言えば、参加者の皆さんは、英語の質だけでなく、自分の声の出し方をうまく磨いていました。10年前と比べると、レシテーションの生徒たちは、理解度の点で納得のいくパフォーマンスができていくかどうかという点で、かなり向上していると思います。しかし、発音が英語のネイティブスピーカーに近いかどうかは、必ずしも重要ではありません。大事なのは、自分を、聞き手に聞かせ、理解させることができるかどうかで、今日の参加者の皆さんは、今言ったようなことを達成していたのではないかと思います。ただ、もっと努力できるのは、ボディランゲージやデリバリー全般です。初めてレシテーションに挑戦する人に言えることだと思うのですが、話すときに体の動きや連携を考えるのはとても難しいことですよね。その中で、自分のパフォーマンスがやりすぎにならないよう、程よく発揮させることはさらに難しいことだと思うので、この点においては努力を続けて改善を試みてください。

さて、スピーチ部門の講評に移ります。皆さんのスピーチはどれも楽しめるもので、明らかに聞く価値のある非常に重要なメッセージを含んでいました。もちろん、英語とデリバリーに関しては、レシテーション部門以上のものを見せてくれました。ぜひ自信を持ってほしいと思います。

さて、今後の上達のためのスピーチの書き方についてお話します。まず、誰のためのスピーチなのかを考えなければなりません。あなたが世の中で起こっていることに対してアイデアを持ち、そのような意見を述べるのは構いません。しかし、次のことを肝に銘じておく必要があります。スピーチは聞き手のためであるのであって、この状況の外にいる他人のためであるのではないのです。スピーチコンテストがあり、人が集まり、あなたの話を聞いている人がいて、あなたがその人たちになにかをするように、あるいはある方法で変化するように演説しているのです。そして、一般的にスピーチコンテストでは、スピーチは問題解決のための説得力のあるスピーチであるべきだという暗黙の了解があることも考えてほしいと思います。これはどんなスピーチコンテストに挑戦しても、そのようなスピーチをすることが期待されているのです。さて、説得力のあるスピーチとなると、誰を説得するのでしょうか。そうです、今、あなたの話を聞いているリスナー（聴衆）です。そして、説得とはどういう意味でしょうか。説得とは、今、あなたの話を聞いている聞き手の考えや態度、行動を変えることです。解決すべき問題を取り上げているとき、あなたは聞き手に何を求めているのでしょうか。あなたは、どのように考えて、どのように聞き手のアイデアや考え、態度を変えてほしいのでしょうか。あなたはスピーチの中で、それを取り上げなければならないのです。「あなたの考え方は良くありません。」「あなたの考え方は間違っている。」「あなたの考え方は修正が必要です。」あなたはそれを聞き手に伝えなければなりません。そうすれば、あなたのコミュニケーションはもっとスムーズになるでしょう。もちろん、あなたは社会のシステムを変えたいのです。そうすると、聞き手が自分と同じ立場でなければ、聞き手に自分と同じ意見を求めることになります。つまり、「誰に向かって話しているのか」を明確にすることができれば、スピーチの組み立て方も違ってきます。スピーチの作り方に関しては、それが一番大事なことです。このことを肝に銘じておけば、今後のスピーチがより良いものになり、有意義なものになることでしょう。

さて、改めまして、本日はたくさんのスピーチをありがとうございました。私にとってはとても充実したひとときだったと思います。これからも頑張ってください。ありがとうございました。

I was deeply impressed with the performances I saw in the contest. I found that all of the participants in both sections put in a lot of energy in order to succeed as well as improve their English skills. I imagine that the participants must have had some difficulty when speaking for the camera since they had to speak as if the audience and judges were in front of them. However, through their performances they proved that they overcame these obstacles with their hard work. In particular, I want to give thanks to their teachers who were devoted to their student's success.

While practicing, it was necessary for students to learn how to deliver their stories and messages in such a way that would reach people's hearts. I think this is different from just telling a story. When we communicate with others, whether in Japanese, in English or in another language, it is important to consider everyone's cultural background, the situations they live in and to think from different perspectives. I believe that English is a great tool to help us get to know and understand people in different situations from ours. I hope that high school students learn to enjoy communication with people through English learning, not just improve their reading, listening, speaking and writing skills.

Lastly, I want to express my appreciation for everyone's dedication, the students' efforts and the support from teachers and the staff of the English Committee.

1. 今回コンテストでは、どの部門に参加しましたか。番号で教えてください。 【 】

- ① 1年レシテーション ② 2・3年レシテーション ③ スピーチ

2. 今回コンテストに参加した理由は何ですか？番号で教えてください。 【 】

- ① スピーチが好きだから。
 ② コンテストに参加すると「英語で書く」ことや「英語で話す」ことに積極的になれるから。
 ③ 周りの人（教師・家族・友人など）に勧められたから。
 ④ クラブ活動として。
 ⑤ その他

<具体的に書いてください>

3. コンテストに関わる学習を通して、日頃の学習と比べて学習量が増えたものは何ですか？
 番号で教えてください(複数回答可)。

【 】【 】【 】

- ① 書くために必要な語句や表現に関する学習
 ② 自分の考えが読み手に理解されるように事実、意見、気持ちなどを整理して書く学習
 ③ 自分の考えが読み手に理解されるように段落構成や、全体の構成に留意して書く学習
 ④ 個々の英文の構造や英語の文章の流れに関する学習
 ⑤ 発音、リズム、イントネーションなどの音声に関する学習
 ⑥ 書き手の意向（レシテーション）や内容に関する自分の解釈（スピーチ）が聞き手に伝わるように音読する学習
 ⑦ ジェスチャー、顔の表情、アイ・コンタクト、姿勢などの非言語的手段に関する学習
 ⑧ ALT とのコミュニケーション
 ⑨ その他

<具体的に書いてください>

- ⑩ 特にない

4. スピーチ・レシテーションコンテストに参加した感想を自由に書いてください。

ご協力ありがとうございました。 アンケートは10/11(火)までにメール送信をお願い致します。

1. 今回コンテストではどの部門に参加しましたか？

① 1年レシテーション	5
② 2・3年レシテーション	5
③ スピーチ	

2. 今回コンテストに参加した理由は何ですか？

① スピーチが好きだから。	
② コンテストに参加すると「英語で書く」ことや「英語で話す」ことに積極的になれるから。	7
③ 周りの人（教師・家族・友人など）に勧められたから。	1
④ クラブ活動として。	
⑤ その他	2

3. コンテストに関わる学習を通して、日頃の学習と比べて学習量が増えたものは何ですか？（複数回答可）

① 書くために必要な語句や表現に関する学習	
② 自分の考えが読み手に理解されるように事実、意見、気持ちなどを整理して書く学習	
③ 自分の考えが読み手に理解されるように段落構成や、全体の構成に留意して書く学習	
④ 個々の英文の構造や英語の文の流れに関する学習	6
⑤ 発音、リズム、イントネーションなどの音声に関する学習	9
⑥ 書き手の意向（レシテーション）や内容に関する自分の解釈（スピーチ）が聞き手に伝わるように音読する学習	6
⑦ ジェスチャー、顔の表情、アイ・コンタクト、姿勢などの非言語的手段に関する学習	6
⑧ ALTとのコミュニケーション	4
⑨ その他	

4. スピーチ・レシテーションコンテストに参加した感想を自由に書いてください。

- ・本番では練習みたいに全然うまくできなかったがやりきったので悔いはない。このコンテストで、英語の文の構成の大事さがわかり、また英単語のイントネーションもよく意識するようになったのでコンテストに参加したことで自分が成長できたと思う。
- ・今回の経験から「英語を話す」ということに対する恐れの気持ちがなくなり、もっと英語を使って話してみたい・楽しんでみたいと思うようになりました。「自分はできない」という考え方をせず、「とりあえずやってみよう」と、挑戦に対して積極的な姿勢も持てるようになった良いきっかけになったと思います。
- ・英語の発音を伸ばそうと参加しました。イントネーションや手ぶりなど、人に伝えることを主とした表現が英語において重要な役割を果たすことがよくわかり、とても良い経験になったと感じました。
- ・自分の発音・リズムがどれだけ通じるのか、発表を通して知ることができてとても良い機会になりました。これからも英語の学習を続け、世界に貢献できるように努力したいと思います。
- ・英語を話すことが好きだったので、今までコンテスト等に出たことはなかったので、とても良い経験になりました。当日は、すごく緊張しましたが、自分らしく発表できたので良かったです。
- ・また自分の好きな英文であるヤマザキマリさんの人生についての英文に触れることができ嬉しかった。ただ音読するだけでなく、この英文は何を伝えたいのか、どういう心情でこの台詞を言ったのかを考えることが新鮮で楽しかった。日々の授業にも活かしたい。
- ・前は選考で落とされてしまい残念だったが、今回は英文の構造だけでなく感情の表現も意識して、自分の最高のパフォーマンスをもって本番を迎えられたので良かった。今後とも英語力を身につけるために様々な活動に参加していきたい。
- ・以前の自分より、また一步成長することができたと思います。本当にありがとうございました。
- ・初めての参加でとても緊張しましたが、教科書を普段よりもっともっと読み込むことができ、発音やリズムも丁寧にチェックして、英語に関する様々なスキルが上達した実感がとても湧きました。良い経験にもなったので、参加してよかったなと思いました。ZOOMで他の人の発表が聞けて良かったです。

第19回 広島県スピーチ・レシテーションコンテスト アンケート結果（集計）【スピーチ】

1. 今回コンテストではどの部門に参加しましたか？

① 1年レシテーション	
② 2・3年レシテーション	
③ スピーチ	4

2. 今回コンテストに参加した理由は何ですか？

① スピーチが好きだから。	
② コンテストに参加すると「英語で書く」ことや「英語で話す」ことに積極的になれるから。	2
③ 周りの人（教師・家族・友人など）に勧められたから。	1
④ クラブ活動として。	
⑤ その他 (将来役に立つと考えたから。また、自分の力を試したかったから。)	1

3. コンテストに関わる学習を通して、日頃の学習と比べて学習量が増えたものは何ですか？（複数回答可）

① 書くために必要な語句や表現に関する学習	
② 自分の考えが読み手に理解されるように事実、意見、気持ちなどを整理して書く学習	2
③ 自分の考えが読み手に理解されるように段落構成や、全体の構成に留意して書く学習	
④ 個々の英文の構造や英語の文の流れに関する学習	
⑤ 発音、リズム、イントネーションなどの音声に関する学習	3
⑥ 書き手の意向（レシテーション）や内容に関する自分の解釈（スピーチ）が聞き手に伝わるように音読する学習	1
⑦ ジェスチャー、顔の表情、アイ・コンタクト、姿勢などの非言語的手段に関する学習	2
⑧ ALTとのコミュニケーション	1
⑨ その他	
⑩ 特になし	

4. スピーチ・レシテーションコンテストに参加した感想を自由に書いてください。

・いつもは積極的にこういうコンテストみたいなものに出ることが無いので、原稿を考えるのも、読みを練習するのも新鮮で楽しかったです。

・スピーチ原稿を考えるのはとても時間がかかった。特に聞いている人がわかりやすい文にするために、心で感じたことや思ったことを具体的に文にする工程に苦戦した。本番は緊張したけれど自分の英語に対する向き合い方がより前向きになって成長を感じた部分もあって嬉しかった。参加してよかった。

・他校の生徒の発表を聞き、自分の英語力や表現方法などまだまだ改善できると知ることができました。発表時は思ったよりも緊張して、考えていた文を上手に言えないこともありましたが、精一杯自分の思いを伝えることができたと思います。今回のスピーチでは、言いたいことを伝えたいばかりに長々とした文で、早口になってしまいました。相手に伝えるためにも、「スピーチ」として表現するためにも、適切な間を空け、適切な速さで話すようにしたいです。

・練習を通して、とても成長ができて本当に良い学びになった。他の人の発表からも沢山学ぶことができた。

教員用

コンテストに関するアンケート

学校名: _____ 学校

お名前: _____

1. 校内ではどのように取り組みましたか？ 番号でお答えください。

【 】

- ① 個人（希望生徒）
- ② クラス（教科担当者）
- ③ 学年全体 対象学年（ ）年，（ ）年
- ④ 英語クラブ
- ⑤ その他（ ）

コンテストに向けての流れ(具体的に)

2. 校内でコンテストを行っていますか？ 番号でお答えください(複数回答可)。

【 】【 】【 】【 】

- ① 英語スピーチコンテスト
- ② 英語暗唱（レシテーション）コンテスト
- ③ 英語プレゼンテーションコンテスト
- ④ 英語ディベート，ミニディベートコンテスト
- ⑤ 日本語スピーチコンテスト
- ⑥ 日本語暗唱（レシテーション）コンテスト
- ⑦ 日本語プレゼンテーションコンテスト
- ⑧ 日本語ディベート，ミニディベートコンテスト
- ⑨ その他（ ）

3. スピーチ，レシテーションに関わる日頃の指導で，指導方法を特に工夫しているものは何ですか？

番号でお答えください(複数回答可)。

【 】【 】【 】【 】

- ① 書くために必要な語句や表現の指導
- ② 自分の考えが読み手に理解されるように事実，意見，気持ちなどを整理して書く指導
- ③ 自分の考えが読み手に理解されるように段落構成や全体の構成に留意して書く指導
- ④ 発音，リズム，イントネーションなどの音声に関する指導
- ⑤ 個々の英文の構造や英語の文章の流れに関する指導
- ⑥ 書き手の意向（レシテーション）や内容に関する自分の解釈（スピーチ）が聞き手に伝わるように音読する指導
- ⑦ ジェスチャー，顔の表情，アイ・コンタクト，姿勢などの非言語的手段に関する指導
- ⑧ ALT の活用
- ⑨ その他

<具体的にお書きください>

- ⑩ 特にない

裏に続きます

4. スピーチ, レシテーションコンテストに参加した生徒は概ねどのような変化がありましたか？

番号でお答えください(複数回答可)。

【 】【 】【 】【 】

- ① 書くために必要な語句や表現に気をつけるようになった。
- ② 自分の考えが読み手に理解されるように事実, 意見, 気持ちなどを整理して書くことに気をつけるようになった。
- ③ 自分の考えが読み手に理解されるように段落構成や全体の構成に留意して書くことに、気をつけるようになった。
- ④ 発音, リズム, イントネーションなどの音声に関するものに、気をつけるようになった。
- ⑤ 個々の英文の構造や英語の文章の流れに関するものに、気をつけるようになった。
- ⑥ 書き手の意向 (レシテーション) や内容に関する自分の解釈 (スピーチ) が聞き手に伝わるように、音読するようになった。
- ⑦ ジェスチャー, 顔の表情, アイ・コンタクト, 姿勢などの非言語的手段に関するものに気をつけるようになった。
- ⑧ ALT とのコミュニケーションが増えた。
- ⑨ その他

<具体的にお書きください>

- ⑩ 特にない。

5 . コンテスト全般についてご意見・ご要望を自由に書いてください。

<例> 規定や実施時期についてなど

ご協力ありがとうございました。
アンケートは 10/11 (火) までにメール送信をお願い致します。

1. 校内ではどのように取り組みましたか？

①	個人（希望生徒）	5
②	クラス（教科担当者）	
③	学年全体	1年
		2年
		3年
④	英語クラブ	
⑤	その他*	1

（*google classroom・授業でアナウンス→希望者を集めて説明会→ALTとの練習，日本人教師との練習）

2. 校内でコンテストを行っていますか？（複数回答可）

①	英語スピーチコンテスト	2
②	英語暗唱（レシテーション）コンテスト	1
③	英語プレゼンテーションコンテスト	
④	英語ディベート，ミニディベートコンテスト	1
⑤	日本語スピーチコンテスト	
⑥	日本語暗唱（レシテーション）コンテスト	
⑦	日本語プレゼンテーションコンテスト	
⑧	日本語ディベート，ミニディベートコンテスト	
⑨	その他*	1

（*例年、数が規定を越えた場合にはコンテストを行うが、今年には行わなかった。）

3. コンテストに関わる学習を通して、日頃の学習と比べて学習量が増えたものは何ですか？

（複数回答可）

①	書くために必要な語句や表現の指導	3
②	自分の考えが読み手に理解されるように事実，意見，気持ちなどを整理して書く指導	4
③	自分の考えが読み手に理解されるように段落構成や全体の構成に留意して書く指導	5
④	発音，リズム，イントネーションなどの音声に関する指導	2
⑤	個々の英文の構造や英語の文の流れに関する指導	2
⑥	書き手の意向（レシテーション）や内容に関する自分の解釈（スピーチ）が聞き手に伝わるように音読する指導	
⑦	ジェスチャー，顔の表情，アイ・コンタクト，姿勢などの非言語的手段に関する指導	1
⑧	ALTの活用	2
⑨	その他	
⑩	特にない	1

4. スピーチ、レシテーションコンテストに参加した生徒は概ねどのような変化がありましたか？
(複数回答可)

① 書くために必要な語句や表現に気をつけるようになった。	
② 自分の考えが読み手に理解されるように事実、意見、気持ちなどを整理して書くことに気をつけるようになった。	1
③ 自分の考えが読み手に理解されるように段落構成や全体の構成に留意して書くことに、気をつけるようになった。	1
④ 発音、リズム、イントネーションなどの音声に関するものに、気をつけるようになった。	5
⑤ 個々の英文の構造や英語の文の流れに関するものに、気をつけるようになった。	3
⑥ 書き手の意向（レシテーション）や内容に関する自分の解釈（スピーチ）が聞き手に伝わるように、音読するようになった	3
⑦ ジェスチャー、顔の表情、アイ・コンタクト、姿勢などの非言語的手段に関するものに気をつけるようになった。	4
⑧ ALTとのコミュニケーションが増えた。	1
⑨ その他	
⑩ 特にない	

5. コンテスト全般についてご意見・ご要望を自由に書いてください。

<ul style="list-style-type: none"> ・パソコン機材や接続状況など、学校によって差があっては、音声の公正な判断が難しいため、オンラインではなく、リアルでの大会開催が望ましいと思います。また、現地に行くという大会参加の体験自体が、コロナ世代の生徒にとって、一つでも多い生の体験となり、高い教育効果が期待できると考えます。 ・今回初めて、コンテストに参加させていただき、他校の生徒さんに素晴らしいスピーチにたくさん触れることができ、生徒・教員ともども大変良い刺激を受けました。ありがとうございました。オンラインでのスピーチコンテストは、実際のオーディエンスに話しかけるといふ動きの代わりに、PCのカメラに向かってパフォーマンスをするという点で難しさがありました。しかし、オンラインでも様々な表現方法があるということも実感し、非常に興味深かったです。また、本選実施に際し、台風対応で予定の変更を迅速にさせていただき大変感謝をしております。ありがとうございました。 ・色々と準備等、お世話になりました。本年度より予選での音声提出がグーグルドライブで行えるようになり、随分作業がスムーズでした。ありがとうございました。今後ともよろしくお願いいたします。 ・この度はありがとうございました。 ・特に問題はないと思います。予選の音声の提出がデータになったので、とても手間が省けました。ありがとうございました。 ・本選出場者がコロナ陽性、もしくは濃厚接触者になった場合について、柔軟な対応を賜りありがとうございました。（結果的には延長になったので、通常通り教員の立ち合いのもと学校から参加することができましたが）ただ、今回のようなことがあった場合の対応について、明文化・周知するかどうかは考慮の余地があるように思います。家からの参加では、教員の立ち合いがなく、公平性に一抹の不安が残るためです。最初から「家からの参加もあり」と思わせるのは問題があるかもしれません。運営の先生方には大変お世話になりました。
--

令和4年7月1日

広島県高等学校教育研究会英語部会
関係高等学校長様

広島県高等学校教育研究会英語部会
部会長 小野 裕之
(広島県立佐伯高等学校長)

第59回広島県高等学校英作文コンテストの開催について

時下、ますます御清栄のこととお慶び申し上げます。日頃より本部会の活動に対しまして御協力をいただきありがとうございます。

さて、英語部会主催の英作文コンテストを次のとおり実施いたします。できるだけ多くの生徒からの応募があるように、英語科御担当の先生方の御協力・御配慮をいただきますようお願い申し上げます。

実施要項

- 1 目的 生徒の英語学力の向上と英語による発表能力の増進を図る。
- 2 応募規定
 - ※ 応募規定に沿っていない場合は欠格とし、採点対象から除外する。
 - a. 資格 広島県の国公私立高等学校および高等専門学校(1～3学年)などの学校に在学する生徒。ただし、広島県高等学校教育研究会英語部会の会員が勤務している学校に在籍する生徒であること。(未加入の場合は審査当日までに会員登録と会費の納入を完了してください。完了していない場合は審査除外となる。)
 - b. 題 1年 “What do you think the world will be like 20 years from now?”
2・3年 “The experience I will never forget”
題の変更はしないこと。
 - c. 制限語数 1年は251語以上500語以内 2・3年は301語以上600語以内
(語数オーバー・不足は失格とする。)
 - d. 用紙設定 A4判で、余白を2cm、行数は42で設定すること。本文はワードで、英文フォントは Times New Roman、日本語フォントはMS明朝、サイズは12とする。
 - e. 作品 1) 未発表のものに限る。
2) 一番上に題を明記し、本文末尾に必ず語数を記入する。(句読点は語数に入れない)
3) 本文右上に、日本語で学校名・学年・氏名・年齢・性別を明記し、さらにローマ字で氏名を書きそえること。

(例)	(タ	イ	ト	ル)
				〇〇立△△高等学校
				1年・英語太郎・16歳・男
				EIGO, Taro
 - f. 提出方法 在學校を経由してメールで提出する。
 - g. 締切 令和4年9月16日(金)必着
 - h. 版權 主催者に帰属する。

3 審査

- a. 基準
- 1) 全体の構成力
 - 2) パラグラフの構成力
 - 3) 適切な文法・構文・語彙の使用
 - 4) 内容

b. 審査

(1) 方法

予備審査：参加校で審査基準に従ってそれぞれの部門で予選を行い、それぞれ上位2作品を選んで送ってください。(予選に参加した人数をご報告ください)

本審査：英作文コンテスト実行委員会が審査し、1年の部と2・3年の部それぞれで9編を選んで入選とし、さらにその中から各4編を選んで入賞とする。

(2) 本審査日 10月7日(金)

(3) 会場 広島県立五日市高等学校(広島県広島市佐伯区観音台3丁目15-1)

4 結果発表

応募者の在 school へ10月下旬に通知する。

入賞・入選は次のとおりである。

最優秀賞 1名 優秀賞 1名 優良賞 2名 佳作 若干名

努力賞 若干名

優良校 (優れた作品を出品した学校)

入賞・入選者は『英語部会会誌第57号』(3月)で発表し、図書カードの副賞を授与する。

5 その他

1) 作品は電子メールでの送付のみ受け付ける。

とりまとめの先生が2作品を1つのワードファイルにまとめて、作品送付票(エクセル)とともにメールに添付し送付する。その際、作品の順番と作品送付票記載の順番が同じになるようにすること。メールの件名及びファイル名は、R4英作文(学校名)とすること。

(例) R4英作文(五日市)

*県立学校以外で参加される場合は以下のリンク先にデジタル版の要項や申込書をシェアしていますので、ご活用ください。

【英語部会事務局 Google ドライブ】



https://drive.google.com/drive/folders/1_7YEHJwkWwJMrnrm08KT072YX1d0pyl8?usp=sharing

2) 送付先アドレス s-kubotak861026@hiroshima-c.ed.jp
広島県立五日市高等学校内
英語部会事務局 久保田 早苗

3) 応募作品の返却はしない。

(問い合わせ先)

広島県高等学校教育研究会英語部会事務局

〒731-5157 広島県広島市佐伯区観音台3丁目15-1

広島県立五日市高等学校 内

担当 洪 美律

TEL 082-923-4181

FAX 082-922-9681

令和4年11月4日

英作文作品応募校
校長様
英語部会員様

広島県高等学校教育研究会英語部会
部会長 小野 裕之
(広島県立佐伯高等学校長)

第59回広島県高等学校英作文コンテスト審査結果について(御報告)

時下、皆様におかれましてはますます御健勝のこととお慶び申し上げます。

平素より本部会の活動・運営に御理解御協力を賜り心より厚く御礼申し上げます。

さて、この度の第59回広島県高等学校英作文コンテストに御応募いただき、心より感謝申し上げます。本年度は県内19校から2,952編の出品があり、いずれも日々の学習の成果が表れた優秀な作品でした。10月14日(金)に審査を行った結果、入賞者は次のとおりです。

1年生の部

賞	英語表記	氏名	学校名
最優秀賞	First Prize	三田 怜奈	広島県立広島井口高等学校
優秀賞	Second Prize	上野 ちひろ	広島県立広島高等学校
優良賞	Third Prize	上神 晴菜	ノートルダム清心中高等学校
優良賞	Third Prize	村上 心音	広島県立尾道東高等学校
佳作	Prize for Fine Work	大掛 夏実	広島県立広島井口高等学校
佳作	Prize for Fine Work	豆田 深雪	ノートルダム清心中高等学校
努力賞	Prize for Effort	坊坂 真侑	広島県立尾道東高等学校
努力賞	Prize for Effort	赤繁 咲多	広島県立世羅高等学校
努力賞	Prize for Effort	大藤 愛美	広島県立高陽高等学校

2・3年生の部

賞	英語表記	氏名	学校名
最優秀賞	First Prize	小栗 美咲	広島県立呉三津田高等学校
優秀賞	Second Prize	本田 玲	ノートルダム清心中高等学校
優良賞	Third Prize	大隅 詠理	ノートルダム清心中高等学校
優良賞	Third Prize	清水 極光	広島県立広島高等学校
佳作	Prize for Fine Work	桑原 舜	広島県立大門高等学校
佳作	Prize for Fine Work	大塚 和	広島県立安古市高等学校
佳作	Prize for Fine Work	鎌田 夏実	広島県立尾道東高等学校
佳作	Prize for Fine Work	神田 藍希	広島県立高陽高等学校
努力賞	Prize for Effort	若山 優希	広島県立福山誠之館高等学校
努力賞	Prize for Effort	林 亮太	広島県立安古市高等学校
努力賞	Prize for Effort	江川 晴香	広島県立広島井口高等学校

*同一の賞内では応募順に表記しています。

優良校 ノートルダム清心高等学校

令和4年8月25日

各高等学校長様
各特別支援学校長様
英語部会員様

広島県高等学校教育研究会英語部会
部会長 小野 裕之
(広島県立佐伯高等学校長)

第14回広島県高校生英語ディベート大会兼全国大会予選会の開催について（御案内）

残暑の候 皆様には益々御清栄のこととお慶び申し上げます。平素から本部会の活動に御理解と御支援をいただき心より感謝申し上げます。

さて、標記の会を次の要領により開催いたします。校務等で御多忙中とは存じますが多数の御参加をいただきますようお願い申し上げます。

- 1 期日 令和4年10月30日（日）
- 2 会場 広島県立五日市高等学校
〒731-5157 広島市佐伯区観音台3丁目15-1
TEL (082)923-4148 FAX (082)922-9681
- 3 日程 ※日程は参加チームの数によって変更の可能性があります
8:40 - 9:00 受付 (ジャッジ打ち合わせ 8:40 ~)
9:00 - 9:15 開会式
9:25 - 10:25 第1試合
10:35 - 11:35 第2試合
11:45 - 12:45 第3試合
12:45 - 13:30 昼食
13:30 - 14:30 第4試合
14:40 - 15:40 第5試合 (順位決定戦)
15:40 - 16:25 審議
16:25 - 16:55 表彰式・閉会式
- 4 参加申し込み期限 令和4年9月28日（水）必着
- 5 参加費 各チーム 5,000円（当日会場でお支払いください。）
- 6 参加申し込み方法 学校単位で別紙参加申込用紙に必要事項を御入力の上、次の（問い合わせ先）メールアドレスに期日までに申し込んでください。

（問い合わせ先） 広島県立五日市高等学校内

英語部会事務局 久保田 早苗

メールアドレス： s-kubotak861026@hiroshima-c.ed.jp

メール及びファイルの件名は、R4ディベート（学校名）としてください。

（例）R4ディベート（五日市）

*なお要項や申込書のデジタルデータが必要な場合はこちらのリンク先からダウンロードしてください。

【英語部会事務局ドライブ】

[第14回ディベート大会のデジタルデータ](#)

7 その他

- (1) 本大会は対面式での実施を予定しておりますが、新型コロナウイルス感染にかかわる状況によって、昨年度同様に ZOOM を用いて実施する可能性もあります。
- (2) 参加校の先生にはジャッジに加わっていただいておりますので、御協力をお願いします。なお、対面及びオンラインの場合でも審査の都合上ジャッジの先生には原則五日市高校に来ていただきます。
- (3) 英語部会の会員がいない学校で、生徒が参加される場合は事前に参加され、会費納入をお願いします。

補足資料 HEnDA のホームページより

Resolved: That the Japanese Government should abolish the mandatory retirement age systems.

日本政府は、定年制を廃止すべきである。是か非か。

全国大会の期日： 2022 年 12 月 17 日(土), 18 日(日)

第 14 回広島県高校生英語ディベート大会兼全国大会予選会 実施要項

The 14th Annual Hiroshima English Debate Competition for High School Students

- 1 主 催 広島県高等学校教育研究会英語部会
Host English Section of Hiroshima High School Educational Research Conference
- 2 日 時 令和 4 年 10 月 30 日 (日)
Date Oct. 30, 2022
- 3 会 場 広島県立五日市高等学校
Place Hiroshima Prefectural Itsukaichi High School
- 4 審査会場 広島県立五日市高等学校
Judging Place 〒731-5157 広島市佐伯区観音台 3 丁目 15-1
TEL (082)923-4148 FAX (082)922-9681
Hiroshima Prefectural Itsukaichi High School
1-15-3 Kannondai Saekiku, Hiroshima City, Hiroshima
- 5 後 援 広島県教育委員会
Support Hiroshima Prefectural Board of Education
- 6 協 賛 ベネッセ・コーポレーション
Sponsor Benesse Corporation
- 7 対 象 県内の高校生
Target High school students in Hiroshima Prefecture
- 8 チーム構成 1 チーム 4 人。各チーム 2 名まで補欠を登録出来る。
Teams 帰国生徒は 1 チームあたり 1 名までとする
4 students appear as a team, adding 2 more as supplemental.
Returnee should be at most one, for a team.
- 9 対戦方法 (この対戦方法は何校が応募するかで最終決定される。もし 7 校応募の場合、次の形式を用いる)
出場 7 チーム + 予選専用 1 チーム (数合わせのため) が、それぞれ第 3 試合まで予選に参加する。
この結果,
(1) 第 3 試合までの票数上位 4 チームが第 4 試合に勝ち進める。
(2) 同ポイントの場合はコミュニケーションポイントで審査し順位を決定する。
(3) 予選専用チームは本選チームとメンバーを入れ替えることができない。情報の共有も不可。

How matches will be held (The method of matches will ultimately depend on how many schools apply.
For example, if seven schools apply, the following method will be used.) :
As a result,

Method of competition (this method will be finalized based on how many schools apply). If 7 schools apply, the following format will be used)

Each of the 7 competing teams plus 1 dedicated qualifying team (to make up the numbers) will participate in the qualifying rounds up to the third game.

This will result in

- (1) The top four teams with the highest number of votes by the third match will advance to the fourth match.
- (2) In case of tie in points, the teams will be judged on the basis of communication points to determine their

ranking.

(3) Teams competing only in the preliminary rounds may not swap members with teams competing in the final round. Information sharing is also not allowed.

1 0 論 題 Resolution

Resolved: That the Japanese Government should abolish the mandatory retirement age systems.

日本政府は、定年制を廃止すべきである。是か非か。

※論題は全国大会と同じです。

第17回全国高校生英語ディベート大会“Online”

12月17日(土)～18日(日) ZOOMでのオンライン開催

1 1 日 程 Schedule

8:40	—	9:00	Reception 受付 (Meeting for Judges ジャッジ打ち合わせ 8:40～)
9:00	—	9:15	Opening Ceremony 開会式
9:25	—	10:25	First Game 第1試合 (予選)
10:35	—	11:35	Second Game 第2試合 (予選)
11:45	—	12:45	Third Game 第3試合 (予選)
12:45	—	13:30	Lunch Break 昼食
13:30	—	14:30	Fourth Game 第4試合 (準決勝戦)
14:40	—	15:40	Fifth Game, 第5試合 (決勝戦)
15:40	—	16:25	Deliberation 審議
16:25	—	16:55	Celebration and Closing Ceremony 表彰式・閉会式

*組み合わせはコンピュータによる乱数発生で決定し当日発表する。

1 2 競技規則 競技は大会規則に基づいて行うものとする。(詳しくは全国大会HP参照)

1 3 表彰 (1) 1位, 2位及びベストディベーターに, 賞状及び賞品を授与する。
(2) 活躍したディベーターに, 賞状を授与する(若干名)。
(3) 上位1校が全国大会の出場資格を得られるものとする。

問い合わせ・連絡先

広島県立五日市高等学校

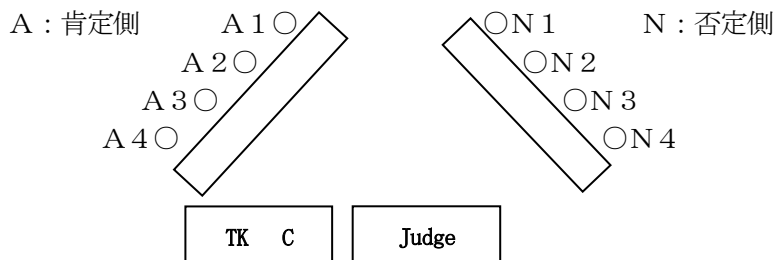
担当: 洪 美律

TEL (082)923-4148 FAX (082)922-9681

試合形式 Debate Format

Affirmative Constructive Speech	肯定側立論	(4分)
———— Preparation Time ————	準備時間	(1分)
Questions from the Negative	否定側質疑	(2分)
Negative Constructive Speech	否定側立論	(4分)
———— Preparation Time ————	準備時間	(1分)
Questions from the Affirmative	肯定側質疑	(2分)
———— Preparation Time ————	準備時間	(2分)
Negative Attack	否定側アタック	(3分)
Questions from the Affirmative	肯定側質疑	(2分)
Affirmative Attack	肯定側アタック	(3分)
Questions from the Negative	否定側質疑	(2分)
———— Preparation Time ————	準備時間	(2分)
Affirmative Defense	肯定側ディフェンス	(3分)
Negative Defense	否定側ディフェンス	(3分)
———— Preparation Time ————	準備時間	(2分)
Affirmative Summary	肯定側総括	(3分)
Negative Summary	否定側総括	(3分)
	計	42分

発言の順番



発言者	役割と内容	時間
A1	①肯定側立論 (Advantage は2点まで出せる)	4分
	準備時間	1分
N4→A1	②否定側質疑 (否定側からの質問に, 肯定側 A1 が答える)	2分
N1	③否定側立論 (Disadvantage は2点まで出せる)	4分
	準備時間	1分
A4→N1	④肯定側質疑 (肯定側からの質問に, 否定側 N1 が答える)	2分
	準備時間	2分
N2	⑤否定側アタック (肯定側の立論のみに対して)	3分
A3→N2	⑥否定側アタックへの質問 (肯定側 A3 からの質問に否定側 N2 が答える)	2分
A2	⑦肯定側アタック (否定側の立論のみに対して)	3分
N3→A2	⑧肯定側アタックへの質問 (否定側 N3 からの質問に肯定側 A2 が答える)	2分
	準備時間	2分
A3	⑨肯定側ディフェンス (アタックを受けた立論を再構築する)	3分
N3	⑩否定側ディフェンス (アタックを受けた立論を再構築する)	3分
	準備時間	2分
A4	⑪肯定側総括 (双方の議論を比較し総括する)	3分
N4	⑫否定側総括 (双方の議論を比較し総括する)	3分
	計	42分

Hiroshima English Debate Competition for High School Students

令和4年10月30日(日)

広島県立五日市高等学校

1. 論題 Resolution

Resolved: That the Japanese Government should abolish the mandatory retirement age systems.

日本政府は、定年制を廃止すべきである。是か非か。

2. 日程 Schedule

8:40	－	9:00	Reception 受付 (Meeting for Judges ジャッジ打ち合わせ 8:40 ～)
9:00	－	9:20	Opening Ceremony 開会式
9:30	－	10:30	First Game 第1試合 (予選①)
10:40	－	11:40	Second Game 第2試合 (予選②)
11:50	－	12:50	Third Game 第3試合 (予選③)
12:50	－	13:35	Lunch Break 昼食
13:35	－	14:35	Semi Final Game 第4試合 (準決勝戦)
14:45	－	15:45	Final Game, 第5試合 (決勝戦)
15:45	－	16:25	Deliberation 審議
16:30	－	16:55	Celebration and Closing Ceremony 表彰式・閉会式

3. 審査員 Members of the Judging Panel

是澤 克哉 (広島修道大学) – Chairperson of the Panel 審査委員長

KORESAWA, Katsuya (Hiroshima Shudo University)

柏原 奨平 (広島市立舟入高等学校)

KASHIHARA, Shohei (Hiroshima Municipal Funairi Senior High School)

サウザー アシュリー (武田高等学校)

SOUTHER, Ashley (Takeda Senior High School)

マーフィー パトリック (広島県立尾道東高等学校)

MURPHY, Patrick (Hiroshima Prefectural Onomichi Higashi Senior High School)

ハラフ モハメド (広島県立広島高等学校)

KHALAF, Mohamed (Hiroshima Prefectural Hiroshima Senior High School)

久保 真大郎 (ノートルダム清心高等学校)

KUBO, Shintaro (Notre Dame Senior High School)

ベネット シェム (広島学院高等学校)

BENNETT, Shem (Hiroshima Gakuin Senior High School)

スミス フローレンス (女学院高等学校)

SMITH, Florence (Jyogakuin Senior High School)

4. 試合形式 Debate Format

Affirmative Constructive Speech	肯定側立論	(4分)
----- Preparation Time -----	準備時間	(1分)
Questions from the Negative	否定側質疑	(2分)
Negative Constructive Speech	否定側立論	(4分)
----- Preparation Time -----	準備時間	(1分)
Questions from the Affirmative	肯定側質疑	(2分)
----- Preparation Time -----	準備時間	(2分)
Negative Attack	否定側アタック	(3分)
Questions from the Affirmative	肯定側質疑	(2分)
Affirmative Attack	肯定側アタック	(3分)
Questions from the Negative	否定側質疑	(2分)
----- Preparation Time -----	準備時間	(2分)
Affirmative Defense	肯定側ディフェンス	(3分)
Negative Defense	否定側ディフェンス	(3分)
----- Preparation Time -----	準備時間	(2分)
Affirmative Summary	肯定側総括	(3分)
Negative Summary	否定側総括	(3分)
	計	42分

5. 対戦表 Competition Table

第1試合(First Game)	A校(A) vs B校(N)	C校(A) vs D校(N)
	会場①：会議室 (C棟2階)	会場②：C11 (C棟1階)
	E校(A) vs F校(N)	G校(A) vs H①校(N)
	会場③：C12 (C棟1階)	会場④：視聴覚 (B棟4階)
第2試合(Second Game)	D校(A) vs E校(N)	H②校(A) vs A校(N)
	会場①：会議室 (C棟2階)	会場②：C11 (C棟1階)
	B校(A) vs G校(N)	F校(A) vs C校(N)
	会場③：C12 (C棟1階)	会場④：視聴覚 (B棟4階)
第3試合(Third Game)	C校(A) vs F校(N)	E校(A) vs B校(N)
	会場①：会議室 (C棟2階)	会場②：C11 (C棟1階)
	H①校(A) vs D校(N)	A校(A) vs G校(N)
	会場③：C12 (C棟1階)	会場④：視聴覚 (B棟4階)
第4試合(Fourth Game) ※上位4校 Semi-final	校(A) vs 校(N)	校(A) vs 校(N)
	会場①：会議室 (C棟2階)	会場④：視聴覚 (B棟4階)
決勝戦 (Playoff)	(A) vs (N)	
	会場④：視聴覚 (B棟4階)	この対戦における肯定側・否定側は、先に直接対戦した際のものとは逆側とする。

※本選対象校のアルファベットは、当日抽選で決定します。

6. 参加校及び参加生徒（全7校・予選9チーム） Participating Schools & Students

1

学校名	広島市立舟入高等学校		
*代表者名（先生）	柏原 奨平（KASHIHARA, Shohei）		
#	氏名	ローマ字	学年
1	上林 蓮	UEBAYASHI, Ren	2
2	岡崎 眞子	OKAZAKI, Chikako	2
3	増田 彩乃	MASHIDA, Ayano	2
4	三好 桜子	MIYOSHI, Sakurako	2
5	森田 嶺	MORITA, Rei	1
6	米田 千紘	YONEDA, Chihiro	1
7	閔 禹佳	ENN, Yuka	1
8	佐々木 六花	SASAKI, Rikka	1
9	吉岡 里笑	YOSHIOKA, Rie	1

2

学校名	武田高等学校		
*代表者名（先生）	サウザー アシュリー（SOUTHER, Ashley）		
#	氏名	ローマ字	学年
1	サウザー 一左	SOUTHER, Issa	2
2	ヘプトナー フィンリ	HEPTNER, Finley	2
3	マーティン ジュリアヌ	MARTIN, Julianne	1
4	芥川 結衣	AKUTAGAWA, Yui	1
5	下野 優羽	SHIMONO, Yu	2

3

学校名	広島県立尾道東高等学校		
*代表者名（先生）	マーフィー パトリック（MURPHY, Patrick）		
#	氏名	ローマ字	学年
1	石橋 七海	ISHIBASHI, Natsumi	2
2	小倉 梅	OGURA, Ume	2
3	金本 知大	KANEMOTO, Chihiro	2
4	竹國 夢乃	TAKEKUNI, Yumeno	2
5	田坂 柚菜	TASAKA, Yuna	2
6	寺岡 実咲	TERAOKA, Misaki	2
7	友岡 妃月	TOMOOKA, Kirara	2
8	箱崎 遥香	HAKOZAKI, Haruka	2

9	藤本 隼輔	FUJIMOTO, Shunsuke	2
10	細谷 彩佳	HOSOYA, Sayaka	2
11	宮崎 友結	MIYAZAKI, Yui	2
12	國本 陽太	KUNIMOTO, Haruta	1
13	田頭 津楽	TAGASHIRA, Tsutano	1

Observer : 高橋 愛海 (TAKAHASHI, Ami)

4

学校名	広島県立広島高等学校		
*代表者名 (先生)	ハラフ モハメド (KHALAF, Mohamed)		
#	氏名	ローマ字	学年
1	橋村 和樹	HASHIMURA, Kazuki	2
2	菊田 奏	KIKUTA, Kana	2
3	清水 極光	SHIMIZU, Hikaru	2
4	折出 実優	ORIDE, Miyu	2
5	大野木 芽生	ONOGI, Mei	2
6	阿部 穂乃花	ABE, Honoka	2

5

学校名	ノートルダム清心高等学校		
*代表者名 (先生)	久保 真大郎 (KUBO, Shintaro)		
#	氏名	ローマ字	学年
1	永野 恵菜	NAGANO, Ena	1
2	土岐 文子	TOKI, Fumiko	1
3	中村 里菜	NAKAMURA, Rina	1
4	菅生 早姫	SUGAO, Saki	1

6

学校名	広島学院高等学校		
*代表者名 (先生)	ベネット シェム (BENNETT, Shem)		
#	氏名	ローマ字	学年
1	柳 怜臣	YANAGI, Reo	1
2	川原 黄龍	KAWAHARA, Koryu	1
3	大谷 総之介	OTANI, Sonosuke	1
4	大下 拓輝	OSHITA, Hiroki	1
5	安宅 柔樹	ATAGI, Naoki	1
6	井上 尚多朗	INOUE, Naotaro	1

学校名	広島女学院高等学校		
*代表者名 (先生)	スミス フローレンス(SMITH, Florence)		
#	氏名	ローマ字	学年
1	久保崎 菜乃	KUBOSAKI, Nano	2
2	成 那奈美	SEI, Nanami	2
3	小川 ひなの	OGAWA, Hinano	2
4	原田 桃佳	HARADA, Momoka	2
5	香川 知沙里	KAGAWA, Chisato	1

8-① (予選参加チーム)

学校名	広島県立広島高等学校		
*代表者名 (先生)	ハラフ モハメド(KHALAF, Mohamed)		
#	氏名	ローマ字	学年
1	上野 愛	UENO, Ai	2
2	見藤 あすか	MITO, Asuka	2
3	五閑 さくら	GOKAN, Sakura	1
4	岡 俊輝	OKA, Toshiki	1
5	田坂 綾莉	TASAKA, Ayari	1

8-② (予選参加チーム)

学校名	広島女学院高等学校		
*代表者名 (先生)	スミス フローレンス(SMITH, Florence)		
#	氏名	ローマ字	学年
1	伊場田 莉奈	IBATA, Rina	1
2	岡留 佑季	OKADOME, Yuuki	1
3	石橋 美侑	ISHIBASHI Miyu	1
4	大島 夕奈	OSHIMA Yuuna	1
5	片上 琴葉	KATAKAMI, Kotoha	1
6	中迫 愛葉	NAKASAKO, Manaha	1

Observer: 村上 碧 MURAKAMI Aoi 2年 矢頭 陽菜 YAZU Haruna 2年

Itsukaichi S.H.S. School Map

Hiroshima English Debate Competition for High School Students

Information

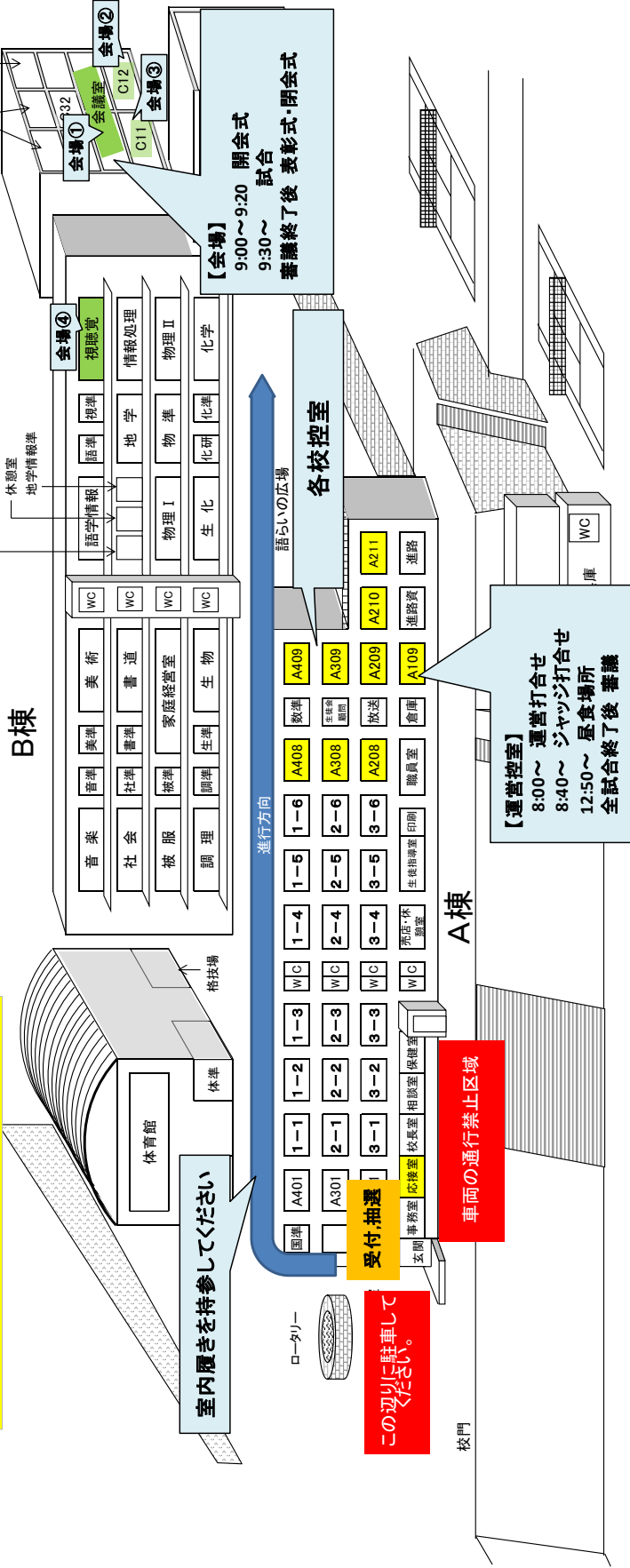
生徒控室 Rooms for each team

- A208 女学院高等学校
- A209 広島学院高等学校
- A210 広島県立広島高等学校
- A211 広島県立尾道高等学校
- A308 広島市立舟入高等学校
- A309 ノートルダム清心高等学校
- A408 女学院高等学校 (予選チーム)
- A409 広島県立広島高等学校 (予選チーム)
- A109 ② 武田高等学校

試合会場 Rooms for debate competitions

会議室 : 予選①会場, 準決勝, 閉会式
 C11 : 予選②会場
 C12 : 予選③会場
 視聴覚室 : 予選④会場, 準決勝, 決勝

本部 Rooms for Judges
 A109 ①, Guest room



第14回広島県高校生英語ディベート大会



- 1 実施日 令和4年10月30日（日）
- 2 参加校 広島市立舟入高等学校，広島学院高等学校，武田高等学校，広島県立尾道東高等学校，
広島女学院中学高等学校，広島県立広島高等学校，ノートルダム清心高等学校
- 3 会場 広島県立五日市高等学校
〒731-5157 広島市佐伯区観音台3丁目15-1 TEL (082)923-4148 FAX (082)922-9681
- 4 審査員
是澤 克哉（広島修道大学）審査委員長
マーフィー パトリック（広島県立尾道東高等学校），
柏原 奨平（広島市立舟入高等学校），ハラフ モハメド（広島県立広島高等学校），
サウザー アシュリー（武田高等学校），久保 真太郎（ノートルダム清心高等学校）
ベネット シェム（広島学院高等学校），スミス フローレンス（広島女学院高等学校）

5 大会概要

広島県高校生英語ディベート大会が、令和4年10月30日（日）に行われました。論題「Resolved: That the Japanese Government should abolish the mandatory retirement age systems. 日本政府は、定年制を廃止すべきである。是か非か。」に対して、各チームが立論・質疑・立論へのアタックに取り組みました。今年度は参加校が7校に増え、約60名が参加しました。久々の対面による試合で日頃の努力の成果を精一杯発揮しました。

（報告：広島県立五日市高等学校 洪 美律）

6 結果

優勝 広島県立尾道東高等学校

準優勝 武田高等学校

(2校は広島県代表として12月17日(土)～18日(日)にオンライン開催された
第17回全国高校生英語ディベート大会“Online”に出場)

ベストディベーター ヘプトナー フィンリ (武田高等学校)

グッドディベーター 清水 極光 (広島県立広島高等学校)

安宅 柔樹 (広島学院高等学校)

森田 嶺 (広島市立舟入高等学校)

久保崎 菜乃 (広島女学院高等学校)

永野 恵菜 (ノートルダム清心高等学校)

石橋 七海 (広島県立尾道東高等学校)

7 審査員長講評

広島修道大学

教授 是澤 克哉

I want to congratulate all the participants and also the teacher who supports students' activities. Debating is a very peculiar activity because we intentionally create confrontations that are avoided in daily life. But everyone feels stressed when you say no or when you express an opinion. However, you always feel some pressure, but that pressure is very important to improve your English and debating skills. So please enjoy this pressure and work with us in the future. Alright, otherwise, in general, there are three pieces of advice about how to make impressive arguments. The first one is to make a specific argument. To be specific, make specific arguments, please give more examples of the arguments. The second point to make an impressive argument is to be consistent. Consistency is very important to make a strong impression on the judges. So please relate to your original argument. There are two ways to do this. The first way is to use more question-and-answer sessions wisely. The second way to relate to your original argument is to use more extensions wisely. Finally, to make your argument impressive, you can be different. It may sound contradictory, but you don't need to accept everything. You need to accept some points, and then show why you are still winning. That's the key point to make an interesting argument. Thank you for the wonderful debate. I just had five rounds and I think the level of the debate is getting much better than I just had the first time here. So please keep debating and keep communicating about it. Thank you very much.



At the final game

第14回広島県ディベート大会 アンケート結果 (集計)

ディベート参加生徒 (学年・男女)

1年	4	男	5
2年	24	女	23
3年	0		

1. 英語ディベート大会参加は何回目ですか。何か月ほど、ディベートに関わりましたか。

1回目	19	2回目	3	3回目	6
-----	----	-----	---	-----	---

1ヶ月	8	7ヶ月	1
1.5ヶ月	4	1年	8
3ヶ月	1	1年6ヶ月	2
4ヶ月	2	1年7ヶ月	2

2. 英語のディベートは楽しいですか。(複数回答可)

①とても楽しい	7
②楽しい	16
③ふつう	3
④あまり楽しくない	
⑤全く楽しくない	

3. 特にどの瞬間が一番、楽しいですか。(複数回答可)

①資料集め	11
②立論作り	8
③立論の読み	3
④crossを考えること	2
⑤crossの答えを考えること	1
⑥第1反駁を考えること	3
⑦第1反駁を話すこと	3
⑧第2反駁を考えること	
⑨第2反駁を話すこと	1
⑩ジャッジをすること	3
⑪練習で試合	8
⑫本番の試合	9
⑬人の試合を見ること	12
⑭その他	

意見	<ul style="list-style-type: none"> ・立論作りで知らなかった人とも仲良くなれた ・ディベート聞くのすごく楽しいです ・ごはんを食べる時間が欲しいです ・英語は楽しい ・青春でした ・楽しかったです。最高
----	--

4. ディベートの準備で何が大変ですか。(複数回答可)

①資料集め	18
②立論作り	18
③立論の読み	4
④crossを考慮すること	4
⑤crossの答えを考慮すること	5
⑥第1反駁を考慮すること	6
⑦第1反駁を話すこと	6
⑧第2反駁を考慮すること	9
⑨第2反駁を話すこと	5
⑩ジャッジをすること	1

5. ディベートで英語が伸びたと思いますか？

<p>①とても伸びた</p>	<p>10</p>	<p>【理由】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 普段使わない単語を使うから ・ リスニング力, 思考力, 回転力などさまざまな能力が使えた ・ 英語で考える自由が増えたから ・ かつてはこんなに自分の主張を英語で言うことはできなかったし, 相手のコンストも回数を重ねるごとに聞き取れるようになったから ・ ずっと英語を聞いて, 書いてをやっていたから。英語を使う機会が増えたから ・ 資料が英語のことも多いし, 専門的な単語にもなってくるため調べるものも増えるし, ディベートをしている時英語脳に切り替わる気がします。 ・ 分からない単語をすぐに調べるようになり, 単語学習能力が上がった ・ 色々な単語を知ったから ・ コンストを書いたり, 反論を書くときたくさんの英単語を覚えたから ・ 専門的な話題について, 分かりやすく伝え, 聞き取る力をつけることができ
----------------	-----------	--

②伸びた	13	<p>【理由】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ Speaking, Listeningの能力が伸びたと思ったから ・ 基本的に英語で考えたりしゃべったりするクセがつくから。 ・ 英語を話さざるを得ない状況にいたので、話さないといけなくて伸びる？ ・ 相手の立論を聞くときなどに英語に多くふれられるから ・ 自分の中で英語が日常にとけこんで、耳がきたえたから ・ 楽しみながら英語をして、英語力が伸びた ・ 自分で考えて話せるようになったから ・ 模試が良くなった ・ 資料の名前など社会に関する英単語を沢山使ったから ・ 専門用語が多く使われており、英語が伸びたと感じました ・ 今まで知らなかった英語をたくさんつかうから ・ まえよりは人の話がきけるようになったから
③ふつう	4	<p>【理由】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ そんなに長い期間ディベートに関わることができていないから ・ 日本語で調べることが多かったから ・ まだディベートに関わって間もないから ・ あまりに専門的な分野だから
④あまり伸びなかった	1	<p>【理由】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 積極的に話し合いに参加できなかったから
⑤全く伸びなかった		

6. どの力が一番伸びる（伸びた）と思いますか？

①話す力	7	<p>【理由】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 知っている英単語が増えたことで、とっさに英語が出るようになったから ・ 即興で英語を活用する必要があるから ・ 英語で話すことが増えたから ・ 話すことは難しかったから ・ 英文を要約して伝える力がついた
------	---	--

②聞く力	18	<p>【理由】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・聞きとらないと何もできないから ・立論が聞けないと何もできないから集中してきくため ・長くて速い英語を聞き取れるようになった気がする ・リスニングは、ディベートで最初に必要とされるから ・難しいevidenceをききとる練習場面が多いから ・ディベートをやったことがない時は全くスピーチを聞き取ることができなかったけど、今はある程度聞き取れるようになったから ・話せるようになったし、リスニングのテストも伸びたから ・話すためには、しっかり聞いておかないといけないから ・話すことは多少事前に用意できるけれど、聞くのは初めて聞く内容になるから。たくさん相手の意見を聞いて返さないといけないから。 ・聞かないとなにも始まらないから ・試合を聞きとることができるから ・反論するために、一生懸命聞くから ・ディベートは聞く力がないと成り立たないと思うから ・ディベートをすると①と②の足りなさをよく把握できるから ・相手の立論をよく聞き取ることがディベートの一步目だから
③書く力	1	<p>【理由】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・エッセイが書けるようになった
④読む力	2	<p>【理由】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今まで避けてきたことだが、資料を読まないで立論が作れないから沢山読んだ
⑤その他	3	<ul style="list-style-type: none"> ・分析する力 ・全部 ・資料集め
		<p>【理由】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・何が書いてあるのか、英語に触れていくにつれて分かるようになってうれしかったから ・何か一つでも欠けたらうまくいかないため伸ばそうと思うから ・そこに力を注いだため

7. どの活動、どの瞬間が、一番英語の力をつけていると思いますか。（複数回答可）

①資料集め	2
②立論作り	12
③立論の読み	4
④crossを考えること	4
⑤crossの答えを考えること	3
⑥第1反駁を考えること	4
⑦第1反駁を話すこと	4
⑧第2反駁を考えること	2
⑨第2反駁を話すこと	4
⑩ジャッジをすること	
⑪練習で試合	13
⑫本番の試合	17
⑬人の試合を見ること	5
⑭その他	

意見	<ul style="list-style-type: none"> ・ ディスコースマーカーを有効に用いることができるともっと力がつくと思う ・ データのリンクがDA/ADのリンクを考える時一番頭を使ったから ・ 相手の英語を聞いてから論理的に考えないといけないから ・ 取捨選択の力が身に付いた ・ 英語力をつけるのは難しい
----	---

8. ディベートの各ステージで、どこが一番大変だと思いますか。（複数回答可）

①立論	6
②立論への質疑	7
③第1反駁	12
④それへの質疑	9
⑤第2反駁	10

意見	<ul style="list-style-type: none"> ・ 決勝の試合が反駁ポイントが私にない点をついていて、聞いていて楽しかったです ・ 次のディベーターにつながる質疑をする必要があるから ・ 立論を聞いていなかったら、アタックできなかったから、もっと練習したかった ・ 資料集めが大変 ・ 反駁は難しい ・ summaryがとても難しいです
----	---

9. 次のどの活動が、英語力がつくと思われますか。

①スピーチ	5	
②プレゼンテーション	7	
③ドラマ	2	
④ディベート	14	
⑤ディスカッション	11	
⑥その他	2	・ 他人と英語で話す ・ 英語で自由交流

10. その他、英語学習とディベートに関すること、ディベートをやっていて良かったこと等何でもご意見をお書きください。

- ・ 英語が好きになりました
- ・ 自分の考えたことをすぐに英語にするのも難しい、みんなすごいけどそれには落とされない力がついた
- ・ 「後悔」の経験を身に染みて分かりました。次こそは成長します
- ・ 今まで知らなかった自分の得意や不得意のことができたこと。またメンバーと一緒に難しい問いについて考えを深めたりデータを探す時間は大変だけどすごく楽しかった。一番は自分自身が成長できた!ことです。
- ・ 仲間とのきずなが深まったし、英語力ものびたし、楽しい濃い時間ができたこと
- ・ ディベートで英語の楽しさを実感できた
- ・ 知らない人とも仲良くなれた
- ・ 今回たくさんの人の素晴らしいディベートの試合を見ることができて良かったです
- ・ 英語が凄く好きになりました
- ・ たくさんの学校のディベートが聞けて、とても勉強になりました
- ・ 社会の制度の見方
- ・ クラス全体でアギュメントを考えることができる
- ・ たくさんの学校の方と英語で関わって良かったです
- ・ 元々英語がすごく苦手でESS部に入りました。でもディベートを通して、練習過程や友達との会話から英語が身近に感じられるようになったと思います。英語の能力はまだですが、今では、好きな科目の1つです。
- ・ 自分が英語でどこまで意見を言えるのかが知れて良かった
- ・ ディベートをすることで、あいてからどんな意見が来るかが分からず、「そういう考え方もあるんだな」ということがよくあった
- ・ 色んな視点から1つのことを考えられるようになった

第15回 中国地区高等学校英語スピーチコンテスト
兼 第15回 全国高等学校英語スピーチコンテスト中国ブロック予選 実施要項

- 1 趣 旨 わが国の高校生の英語による表現力を伸ばし、英語学習に対する関心を高めるとともに、国際的視野を持つ人材の育成に資する。
- 2 主 催 島根県高等学校英語教育研究会
(中国地区高等学校英語スピーチコンテスト実行委員会)
- 3 後 援 広島県教育委員会、山口県教育委員会、島根県教育委員会、鳥取県教育委員会、岡山県教育委員会、山陰中央新報社、NHK松江放送局 (予定)
- 4 大会運営 中国地区高等学校英語スピーチコンテスト実行委員会
- 5 日 時 令和4年11月19日(土) 13:00~16:00
- 6 会 場 オンライン (Zoom) による実施。参加生徒は、原則、各自の在籍する学校教職員の立ち会いのもと、通信環境の整った場所(所属学校の教室等)にて発表を行う。審査は、島根県立松江北高等学校(〒690-0872 松江市奥谷町164番地)にて大会当日に行う。なお、接続テストの日時については、9月を目途にお知らせする。
- 7 大会概要 各県大会で選ばれた代表2名が中国大会に臨む。各県代表2名のうち少なくとも1名は、全国大会実施要項の「参加資格」に示された「第1部に参加できる者」とする。
- 8 論 題 自由(未発表のオリジナル原稿に限る)
ただし、県大会、ブロック大会、全国大会を通じて、スピーチの内容に大きな改変を加えてはいけない。
- 9 制限時間 4分30秒から5分30秒
- 10 審査基準 内容(Content)50点 英語(English)30点 態度(Delivery)20点 合計100点
Questions & Answers (Interaction) は実施しない。
- 11 審査員 ネイティブ・スピーカー3名を含む5名
- 12 応募方法
 - (1) 各県で選出された出場者については、各県高等学校英語教育研究団体が県別にまとめて、中国大会担当者宛てに送付する。(中国大会担当者の送付先は次頁に掲載)
 - ①「応募申込書」
参加生徒の在籍学校長が作成した応募申込書(公印必要)を郵送する。
 - ②「スピーチ原稿(A4判、縦)」
電子メールの添付ファイルとして送付する。「スピーチ原稿」には、学校名・生徒氏名・論題を明記する。
 - (2) 「応募申込書」は、中国大会担当者が各県担当者宛てに送付した「中国地区高等学校英語スピーチコンテスト応募申込書」を使用する。
 - (3) 応募されたスピーチ原稿の著作権は、主催者に帰属する。
- 13 申込期限 「申込書」及び「スピーチ原稿の電子ファイル」とも令和4年11月4日(金)必着
- 14 表 彰 上位3名を決定し、全員を表彰する。

15 全国大会の参加者

全国大会の要項5の(5)に「各ブロックは、第1部に1名以上の参加者を出すものとする。」とあることから、令和5年2月5日(日)にオンライン(Zoom)で開催される全国大会に参加する者は次の(1)、(2)に該当する者とする。

- (1) 第1部の参加有資格者であり且つ第1部への参加を希望する者のうち最上位の順位の者
- (2) 上記15の(1)に該当する者以外の者のうち最上位の順位の者

16 選考結果の通知

選考結果については、各県高等学校英語教育研究団体に通知する。(全国大会への出場権を獲得した者に不測の事態が起こった場合は、主催者で別途協議し決定する。)

[附 則]

1 参加資格

全国大会の参加資格に準じる。参加者は学校長の推薦を必要とする。参加者については、当該学校長は推薦の際、参加資格に抵触しないことを証するものとする。

2 制限時間

- (1) 計時は、生徒の第一声から開始する。
- (2) 4分、4分30秒、5分、5分30秒の時点で時間を示す。
- (3) 4分30秒に満たない場合、5分30秒を超えた場合には、減点する。

3 審査

- (1) 内容・英語・態度の観点を踏まえ、スピーチを総合的に審査する。
- (2) 得点を集計し、それを基に審査員が協議して、順位を決定する。

[中国大会担当者・応募申込書及びスピーチ原稿の提出先]

島根県立松江北高等学校 古川志穂

〒690-0872 松江市奥谷町164番地

TEL: 0852-21-4888 FAX: 0852-21-4977

E-mail: furukawa-shiho@edu.pref.shimane.jp

※ 申込の場合は、件名に「中国スピコン応募」と記入すること。

第15回 中国地区高等学校英語スピーチコンテスト兼
第15回 全国高等学校英語スピーチコンテスト中国ブロック予選

- 1 実施日 令和4年11月19日(土)
- 2 発表者 各県大会で選ばれた代表2名の高校生 10名
- 3 形態 オンライン
- 4 全国大会出場者
アブラザ アイビー さん (広島県立竹原高等学校) (第2部)
石橋 七海 さん (広島県立尾道東高等学校) (第1部)

5 コンテストの概要報告

第15回中国地区高等学校英語スピーチコンテスト兼第15回全国高等学校英語スピーチコンテスト中国ブロック予選が、令和4年11月19日(土)に島根県立松江北高等学校を審査本部としてオンラインを通じて開催されました。中国5県の各県大会で選ばれた代表2名、10名が発表しました。新型コロナウイルス感染症対策として、昨年度の引き続きオンライン開催となりましたが、出場生徒たちは画面を通じて一生懸命に成果を発揮していたそうです。喜ばしいことに、広島県から出場したアブラザ アイビーさん(広島県立竹原高等学校3年)と石橋七海さん(広島県立尾道東高等学校2年)が上位入賞を果たし、全国大会の出場を決めました。このような大健闘の報告を受け、今後の英語部会の事業がさらに活性化されることを期待しています。

(報告：広島県立五日市高等学校 洪 美律)

第15回 全国高等学校英語スピーチコンテスト実施要項

1. 趣 旨 わが国の高校生の英語による表現力を伸ばし、英語学習に対する関心を高めるとともに、国際的視野を持つ人材の育成に資する。
2. 主 催 全国英語教育研究団体連合会（全英連）
3. 後援（申請予定） 文部科学省、外務省、東京都教育委員会、読売新聞社、ブリティッシュ・カウンシル、カナダ大使館、アメリカ大使館、オーストラリア大使館、NHKエデュケーショナル
4. 大会運営 全国英語教育研究団体連合会高校部会第二事業部
5. 実施概要
 - (1) 都道府県大会（以下、県大会とする）を実施し、県大会で選ばれた代表がブロック大会に臨み、ブロック大会で選ばれた代表が全国大会に臨む。今年度はオンライン(Zoom)で行う。
 - (2) 全国大会は、ブロック大会の成績優秀者（各ブロック2名）により行う。
 - (3) ブロック大会は、県大会の成績優秀者により行う。ブロックは次の9つとする。
北海道、東北、関東甲信越、東京、東海北陸、近畿、中国、四国、九州
 - (4) 県大会の成績優秀者は、各都道府県の高等学校英語教育研究団体が主体的に選考する。
※選考の方法は問わない。ビデオ審査 オンライン審査等。
 - (5) 全国大会は、第1部、第2部の2部制とする。（各部の参加資格については、8. 参加資格の項を参照）各ブロックは、第1部に1名以上の参加者を出すものとする。
 - (6) 第2部において Questions & Answers（Interaction=「やり取り」）を実施する。
6. 期 日 2023年2月5日（日）
時程は、関係者に別途連絡する。
7. 参加資格

わが国の高等学校および高等専門学校（1～3学年）などの学校に在籍し、全英連の各ブロック大会においてブロック代表として選出された生徒とする。（1ブロック2名とする。）

ただし、過去に全国大会にて入賞した者は参加できない。

第1部に参加できる者は、下記(a)～(c)のいずれにも該当しない生徒とする。

 - (a) 満5歳の誕生日以後に、通算1年以上または継続して6ヶ月以上、英語圏（英語を第一言語、公用語、または公用語に準ずる言語として使用する国、地域）に居住した者。※英語圏詳細については別途、全英連ホームページに掲載する。ホームページ掲載は、6月の予定。
 - (b) 日本国内、海外を問わず、6ヶ月以上、英語以外の教科に関し、実態として英語による教育を行っている学校（アメリカン・スクール、インターナショナル・スクール、または授業科目の半分以上を英語で教育を行っている学校を含む）に在籍し、その教育を受けたことのある者。
 - (c) 満5歳の誕生日以後に、保護者または同居親族に、英語を母語とする者、もしくは英語圏出身の者がいる場合。
8. 論 題
 - (1) 自由（未発表のオリジナル原稿による prepared speech）
ただし、ブロック大会、全国大会を通じて、スピーチの内容に大きな改変を加えてはいけない。
 - (2) ブロック代表者は、指定の期日までにスピーチ原稿を全英連高校部会第二事業部に提出する。
9. 制限時間 4分30秒～5分30秒
10. 審査基準

第1部	内容 Content 50点、英語 English 30点、態度 Delivery 20点、合計 100点	
	Questions & Answers（Interaction）は実施しない。	
第2部	内容 Content 50点、英語 English 30点、態度 Delivery 20点、	
	Questions & Answers（Interaction） 15点	合計 115点
11. 審査員

審査委員長	鳥飼玖美子（立教大学名誉教授）
審査委員	木村松雄（青山学院大学教授）、新崎隆子（会議通訳者）
	ゲーリー・スコット・ファイン（東海大学教授）、
	ピーター・バラカン（ブロードキャスター）、ケイト・エルウッド（早稲田大学教授）

[附則]

1. 参加資格

- (1) 参加資格の項にある学校に在籍する外国籍の生徒も参加できる。ただし、留学生は参加できない。米軍基地内の学校のように、外国の学校に在籍する生徒は参加できない。参加者は学校長の推薦を必要とする。参加者については、当該学校長は推薦の際、参加資格に抵触しないことを証するものとする。
- (2) 検討が必要とされる場合は、全英連高校部会第二事業部が判断する。

2. 制限時間

- (1) 計時は、生徒の第1声から開始する。
- (2) 4分30秒に満たない場合、または5分30秒を超えた場合は、減点する。
- (3) 第2部の Questions & Answers (Interaction) は、制限時間には含めない。

3. 審査

- (1) 第1部、第2部の審査・表彰はそれぞれ別個に行う。
- (2) 内容・英語・態度（第2部は、Questions & Answers (Interaction)を含む）の観点を踏まえ、スピーチを総合的に審査する。
- (3) 各審査委員の順位を集計し、それを基に審査委員で協議し最終順位を確定する。

4. 著作権

ブロック代表生徒のスピーチの著作権は主催者に帰属する。

5. その他

- (1) 出場者は、2023年1月21日(土)のZoomの接続テスト、および2023年2月4日(土)のZoomによるオリエンテーション・リハーサルに参加する。(時間は別途連絡)

全国英語教育研究団体連合会（全英連） <http://www.zen-ei-ren.com/>

[事務局所在地] 〒162-0808 東京都新宿区天神町1番地 天台ビル6F

TEL/FAX: 03-3267-8583

[ブロック大会問い合わせ先]

* 各都道府県大会に関しては、学校を通して各都道府県の担当者にお問い合わせ下さい。

ブロック	責任者	所属校	ブロック	責任者	所属校
北海道	高 椋 勇 一	北海道札幌東高等学校	近 畿	川 瀬 千 津	滋賀県立虎姫高等学校
東 北	馬 場 香 樹	岩手県立盛岡第一高等学校	中 国	渡 部 一 哉	島根県立松江北高等学校
関 東 甲信越	初 鹿 野 仁	山梨県立甲府西高等学校	四 国	兵 頭 弘 美	愛媛県立松山南高等学校
東 京	問 谷 薫	東京都立文京高等学校	九 州	高 田 裕 介	大分県立大分南高等学校
東 海 北 陸	山 口 隆 子	福井県立武生高等学校			

[全国大会問い合わせ先]

全英連高校部会第二事業部長 下山 宣子（東京都立多摩科学技術高等学校）

〒184-8581 東京都小金井市本町6-8-9

メールアドレス Nobuko_Shimoyama@education.metro.tokyo.jp

- ③ 異文化間協働活動の推進について（外国語科に限らない）
 （例）外国人との交流・姉妹校交流（Web会議，交流プログラム開発）について
 生徒の異文化体験・海外留学について
 グローバル・マインドの育成について
 SDGs や WWC に関わるプログラム開発について

- ④ 特に外国語科の指導に関連する内容について
 （例）英語の4技能5領域（聞く・読む・話す（やり取り/発表）・書く）の育成について
 主として英語を用いて英語の授業を行うことについて
 英語教員としての英語力の向上について

- ⑤ その他（ ）

3 英語部会の達成目標(2)についてお尋ねします。「学びの変革（主体的・対話的で深い学び）」と関わりのある内容に関して、どのような機会において研修に取り組みましたか。次の①～⑨から選んでください（複数選択可）。

- ①校内の研究・研修 ②県教育委員会の研修会 ③他校の公開研究授業
 ④民間の研究団体や企業の研修会 ⑤国内・海外の大学の研修会
 ⑥自主研究グループの活動 ⑦教育に関する書物・雑誌購読やインターネットによる情報 ⑧その他
 （ ）
 ⑨「学びの変革」と関わりのある内容に関して、特に研修はしていない。

4 現在、どのような分野・テーマの研修をしたいと思われていますか（複数選択可）。
 （ ）

【2】英語部会主催の1～3の高校生育成事業に関して、次の項目(a)～(c)について、それぞれお答えください。

- 1 英語スピーチ・レシテーションコンテスト（9月2日予選→10月1日本選）
- 2 英作文コンテスト（10月審査）
- 3 英語ディベート大会（10月30日）

- (a) ①生徒を参加させた、あるいは、生徒に案内した。
 ②生徒を参加させなかった、あるいは案内しなかった。
 ③本校の誰も開催されるのを知らなかった。
- (b) ②と答えられた学校は、その理由をお書きください。
- (c) この事業に来年度貴校の生徒を参加させるために、あるいはこの事業をさらによいものにするために、何が改善されなければなりませんか（課題）。

ご協力ありがとうございました。後日、会誌で結果を報告いたします。

英語教育及び研修に関するアンケート結果

調査の目的

- ① 英語部会の目標(1)(2)の達成状況を調査し、よりよい研修機会を提供するための資料とする。
 - (1) 「学びの変革（主体的・対話的で深い学び）」の趣旨を踏まえた授業展開や教材開発を行う。
 - (2) 「学びの変革（主体的・対話的で深い学び）」と関わりのある内容について研究・研修を行う。
- ② 英語部会の目標(3)に基づき実施している事業の課題を明らかにし、改善を図る。
 - (3) 高校生育成事業に応募する学校数・生徒数を増加させる。

回答数

29校 93名

アンケート項目

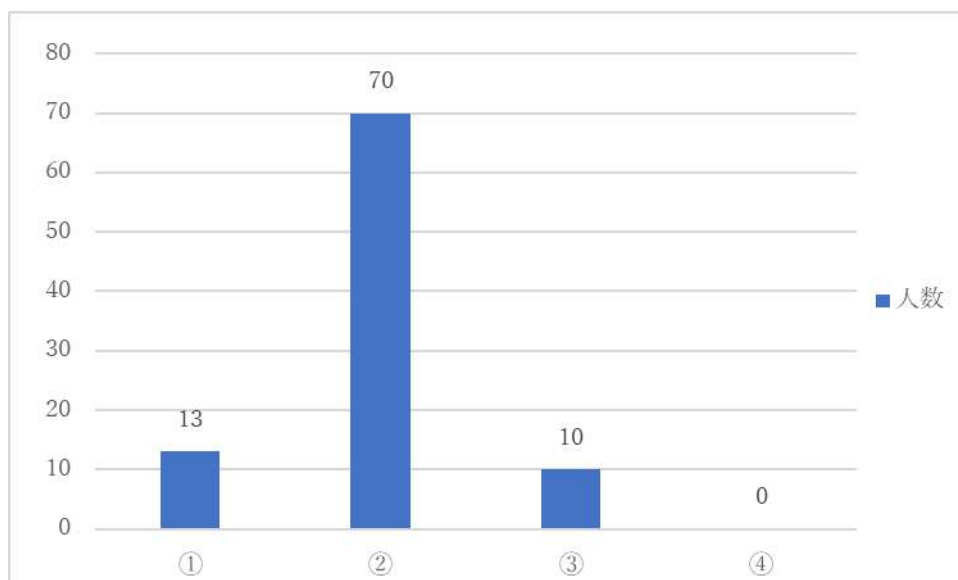
【1】本年度（4月～現在、または3月までの予定）の達成目標について該当する番号を○で囲んでください。

- 1 英語部会の達成目標(1)についてお尋ねします。次の①～④のうち1つを選んでください。

「学びの変革（主体的・対話的で深い学び）」の趣旨を踏まえた授業を展開した、あるいは教材を開発した。

- | | |
|-------------|--------------|
| ①大いに当てはまる | ②ある程度当てはまる |
| ③あまり当てはまらない | ④まったく当てはまらない |

集計結果

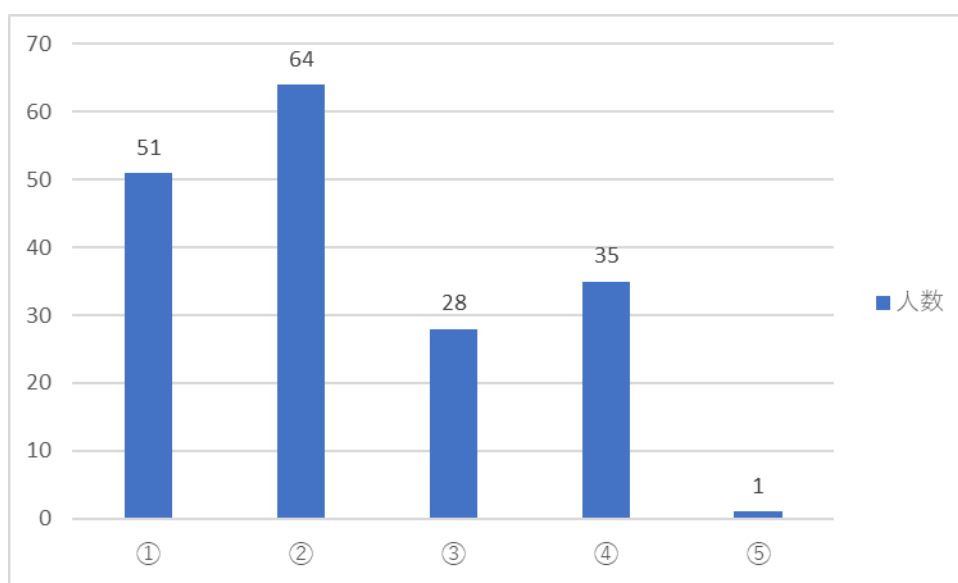


(数字は実数)

2 英語部会の達成目標(2)についてお尋ねします。「学びの変革（主体的・対話的で深い学び）」と関わりのある内容に関して、どのような内容について研究・研修に取り組みましたか。 次の①～⑤から選んでください（複数選択可）。

- ① 目標・評価について（外国語科に限らない）
 - （例）評価指標（ルーブリック）の開発・使用について
 - CAN-DO 形式による学習到達目標の開発・使用について
 - 多様な評価方法（例えばパフォーマンス評価）について
 - 評価の観点について
- ② 教授法・指導法について（外国語科に限らない）
 - （例）「能動的な学び」「主体的な学び」「アクティブ・ラーニング」について
 - 「課題発見・解決学習」「探究的な学び」「教科の枠を越えた学び」について
 - 「思考力・判断力・表現力等の育成」「言語活動の充実」について
 - 「見方・考え方」を働かせた授業について「ディベート活動」について
- ③ 異文化間協働活動の推進について（外国語科に限らない）
 - （例）外国人との交流・姉妹校交流（Web 会議，交流プログラム開発）について
 - 生徒の異文化体験・海外留学について
 - グローバル・マインドの育成について
 - SDGs や WWC に関わるプログラム開発について
- ④ 特に外国語科の指導に関連する内容について
 - （例）英語の 4 技能 5 領域（聞く・読む・話す（やりとり/発表）・書く）の育成について
 - 主として英語を用いて英語の授業を行うことについて
 - 英語教員としての英語力の向上について
- ⑤ その他（ ）

集計結果

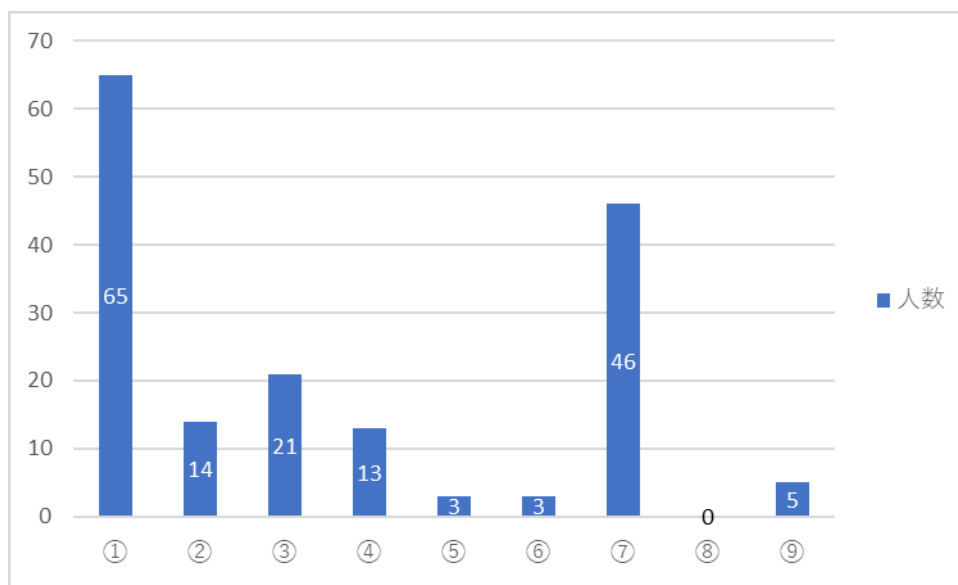


（数字は実数）

3 英語部会の達成目標(2)についてお尋ねします。「学びの変革（主体的・対話的で深い学び）」と関わりのある内容に関して、どのような機会において研修に取り組みましたか。次の①～⑨から選んでください（複数選択可）。

- ①校内の研究・研修 ②県教育委員会の研修会 ③他校の公開研究授業
- ④民間の研究団体や企業の研修会 ⑤国内・海外の大学の研修会
- ⑥自主研究グループの活動 ⑦教育に関する書物・雑誌購読やインターネットによる情報
- ⑧その他（ ）
- ⑨「学びの変革」と関わりのある内容に関して、特に研修はしていない。

集計結果



（数字は実数）

4 現在、どのような分野・テーマの研修をしたいと思われていますか（複数選択可）。

集計結果

- [教材について]**
- ・パフォーマンス課題
- [研究授業・研修会について]**
- ・公開研究授業
 - ・国内・海外の大学の研修会
 - ・民間の研究団体や企業の研修会
 - ・海外進学制度について
 - ・生涯学習
 - ・校内の研究・研修
 - ・県教育委員会の研修会

[目標・評価について]

- ・ 観点別評価の在り方について
- ・ 主体的な態度の評価方法
- ・ 3観点の学習評価について
- ・ 多様な評価方法について
- ・ 評価の観点について
- ・ 「思考力・判断力・表現力などの育成」について
- ・ 「探究的な学び」について
- ・ 外国語科における主体的に学習に取り組む態度の指導と評価の在り方について
- ・ 外国語科における知識・技能、思考判断表現力の評価ルーブルックや評価問題の実践事例について
- ・ 観点別評価（特に主体的に学習に取り組む態度）について
- ・ 通信教育のスクーリングの中で3観点をどのように評価していくのか
- ・ パフォーマンス評価について
- ・ 評価に関する研修
- ・ 3観点と評価方法について
- ・ パフォーマンステストの実施と評価方法について
- ・ 主・学・態の評価について
- ・ 評価全体について
- ・ ルーブリック・評価について

[教授法・指導法について]

- ・ 思考力・判断力・表現力を育成する授業について
- ・ アクティブ・ラーニングや言語活動(特にやりとり)を中心とした授業
- ・ 勤務校の実態に合わせた「主体的・対話的で深い学び」の実践勤務校の実態に合わせた「主体的・対話的で深い学び」の実践
(レベルの高い学校以外の実践例をたくさん知りたい)
- ・ 英語やその他の学習に対して消極的な生徒に力を付けさせる授業
- ・ 自他を高める表現力の育成
- ・ コミュニカティブな文法指導
- ・ ICTを活用した主体的な学びについて
- ・ スピーキング活動を中心とした授業法
- ・ SDGsと教科指導を融合した授業(他教科とも連携もしながら)
- ・ iPadを効果的に活用した指導法
- ・ ICT活用のより効果的な方法
- ・ 課題発見や解決学習
- ・ 高校における中学英語の見直し
- ・ 下位層の指導
- ・ 教科の枠を超えた授業の方法について
- ・ 話すこと(やり取り)の力を育成するための具体的言語活動
- ・ 主体的な学びを促す授業づくり
- ・ 4技能の伸長のための取り組み
- ・ ICTの活用
- ・ 動機付け
- ・ 読む力を大人数のクラスで鍛えられるスキル
- ・ PCを使ったペア・グループワーク

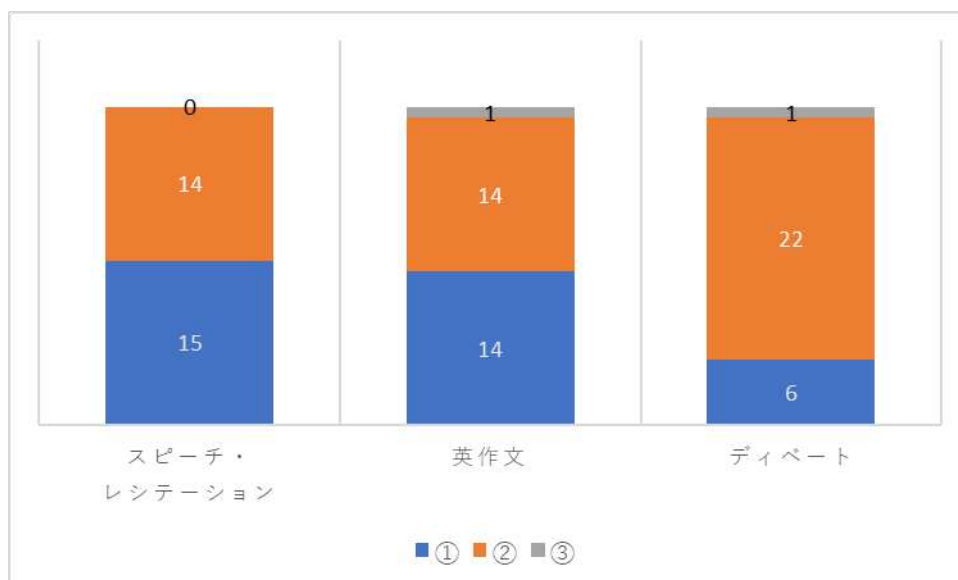
【2】英語部会主催の1～3の高校生育成事業に関して、次の項目(a)～(c)について、それぞれお答えください。

- 1 英語スピーチ・レシテーションコンテスト（9月2日予選→10月1日本選）
- 2 英作文コンテスト（10月審査）
- 3 英語ディベート大会（10月30日）

- (a) ①生徒を参加させた、あるいは、生徒に案内した。
 ②生徒を参加させなかった、あるいは案内しなかった。
 ③本校の誰も開催されるのを知らなかった。
- (b) ②と答えられた学校は、その理由をお書きください。
- (c) この事業に来年度貴校の生徒を参加させるために、あるいはこの事業をさらによいものにするために、何が改善されなければなりませんか（課題）。

集計結果

(a) 生徒の参加について



(数字は実数)

(b) 生徒を参加させなかった、あるいは案内しなかった理由

[スピーチ・レシテーションコンテスト]

- ・商業高校のスピーチ・レシテーションコンテストに参加させたため。
- ・本年度は特に国際交流に力を入れたので、参加したい生徒が出てきても指導する時間的余裕がなかったため。
- ・少人数の学校で、全体的に英語に対して苦手意識が高い生徒が多く、意欲的に参加する生徒がいない。案内して参加を促したい生徒はいたが、受験等があり時期的に難しかったため。

[英作文コンテスト]

- ・英作文を書くには多くの時間を要し、生徒は日々の課題や部活動で時間がなく、コンテストにじっくりと取り組むことができないと予想されるから。
- ・生徒の実態から参加することは難しいと判断したため。
- ・スピーチ・コンテストの指導に専念したため。
- ・少人数の学校で、全体的に英語に対して苦手意識が高い生徒が多く、英文を作ること自体に課題があるため参加は難しいと判断したため。

[ディベート大会]

- ・授業でもディベートを扱う機会がなく、ディベートは本校生徒にとってハードルが高すぎると考えたから。
- ・生徒の実態から参加することは難しいと判断したため。
- ・本年度は特に国際交流に力を入れたので、参加したい生徒が出てきても指導する時間的余裕がなかったため。
- ・スピーチ・コンテストの指導に専念したため。
- ・ディベート大会に出場する生徒を集めるのが難しく、またディベートの指導も難しいため。
- ・時間的に指導する余裕がなかったため。
- ・少人数の学校で、全体的に英語に対して苦手意識が高い生徒が多く、英語で会話することに課題があり、参加は難しいと判断したため。
- ・本校の生徒の力では難しく、指導を行っていないため。
- ・例年不参加のため。
- ・参加できるレベルまで生徒を指導できないため。

[各事業に共通の理由]

- ・指導する余裕（時間的・人的）がなかった。
- ・参加レベルに生徒が到達していない。
- ・指導時間不足。
- ・参加希望者がなかった。
- ・3年生を担当しており、受験指導の方に意識が向いていたため。
- ・英語力が追い付いていない。
- ・通信制で学習する生徒には向いていないから。
- ・生徒が登校する日数が限られており指導が難しいため。
- ・生徒への指導や対応に時間がかかり、十分な時間を確保することが難しい。
- ・毎年の応募数が少なく、一部の教員に負担がかかるようになるため。
- ・スーパーサイエンスハイスクール事業での様々な取組における英語分野の指導のため。
- ・現在の開講科目の中では十分な指導が難しい。

(c) 改善すべき課題

[スピーチ・レシテーションコンテスト大会]

- ・本校で実施しているコンテストとの関連付けや日程調整（校内のスピーチ・レシテーションコンテストは12月）をすることによりさらに多くの生徒を参加させられる可能性はあります。
- ・英語科全体で取り組まなければならない。
- ・夏休みの宿題として取組ませることも解決の一つと思います。
- ・来年もテーマが同じ場合、要項 p. 2 のスピーチの規定の中に、p. 4 の審査基準の表現「社会問題を提起し」を入れていただきたいです。
- ・意識、能力をより高め、育成事業に参加している生徒たちのレベルに到達させたい。

[英作文コンテスト]

- ・本校で2学年生徒に対して課している英作文の課題をコンテストの課題と同じにし、興味がある生徒にはより長いものを書かせ、提出することにより参加が可能になる可能性はあります。
- ・「書く」活動をより多く増やし、基本的な文や語彙を身に付け、自分の意見など簡潔に書くことができるようにしなければいけない。
- ・生徒の英語による表現力・発信力の育成
- ・夏休みの宿題として取組ませることも解決の一つと思います。
- ・意識、能力をより高め、育成事業に参加している生徒たちのレベルに到達させたい。

[ディベート大会]

- ・ディベートはなかなか難しいと思います。
- ・授業の中でディベートに必要な表現方法を教えたり実践したりする場を設けていないので、授業の中でそのような場を設けて生徒に実践させることが必要。
- ・英語科全体で取り組まなければならない。
- ・生徒の英語による表現力・発信力の育成。
- ・本校生徒の英語学習に対するモチベーションを上げる必要があると思っています。
- ・まずは4技能5領域の基礎・基本の力をつけることが急務と思う。
- ・普段の授業においてディベート指導を行うこと。
- ・事前にセミナーがオンライン等であると指導の負担軽減になるのではないか。

[各事業に共通の課題]

- ・生徒への参加・英語学習への動機づけ。
 - ・生徒の基礎力の底上げ。
- 授業を通して様々な言語活動を体験させることで、英語学習に対するモチベーションを向上させる。
- ・レベルに応じた参加枠の設定。
 - ・英語部会での主催行事に対してよく理解した上での、英語科内での働きかけ（コンセンサス）。
 - ・基礎の定着、苦手意識の改善
 - ・学び直しで一から英語を勉強し直している生徒や、大勢の人の前で話をしたりパフォーマンスしたりするのが苦手な生徒でも参加できるレベルのものがあると良い。
 - ・授業外で指導することが難しい学校である。生徒の大部分がこれらの大会に参加できる力に到達していない。これらの点が改善される必要がある。
 - ・通信制の生徒も参加できるやり方を検討すること。
 - ・担当教員の他の業務負担の軽減。
 - ・現場に余裕がない。目の前の生徒の指導で手一杯。重複するアンケートや何のためにしているのか効果を感じづらい書類作成等、精選してほしい。部会事務局の先生方に負担が集中するのもどうかと思う。実施の有無も含め、コンテストのあり方を再考してはどうか。
 - ・時間的余裕がない。
 - ・案内をするに留まったが、有望な生徒には個別に声掛けをするなどが必要だった。
 - ・各校の生徒に指導をする際の教員負担の軽減。
 - ・普段の授業で、英作文に関する指導を充実させる。
 - ・生徒への参加の呼びかけをより充実させる。

令和4年度広島県高等学校英語部会
公開研究授業 各地区の実施情報

(1) 広島西地区

ア 期日：令和4年11月10日(木)

イ 場所：広島県立可部高等学校

ウ 内容

・教科等：外国語・応用英語演習 (単元：Interview with AI robots.)

・授業者：広島県立可部高等学校 教諭 小崎 靖子

(2) 広島東地区

ア 期日：令和4年11月11日(金)

イ 場所：広島県立安芸府中高等学校

ウ 内容

・教科等：外国語・総合英語 I

・授業者：広島県立安芸府中高等学校 教諭 頼近 真理

(3) 呉地区

ア 期日：令和4年11月25日(金)

イ 場所：広島県立呉三津田高等学校

ウ 内容

・教科等：外国語・英語コミュニケーション I

・授業者：広島県立呉三津田高等学校 教諭 岩崎 直樹

(4) 尾道・三原地区

ア 期日：令和4年11月17日(木)

イ 場所：広島県立尾道東高等学校

ウ 内容

・教科等：外国語・英語コミュニケーション I

・授業者：広島県立尾道東高等学校 教諭 渡辺 真弓

(5) 福山地区

ア 期日：令和4年11月1日(火)

イ 場所：広島県立福山工業高等学校

ウ 内容

- ・教科等：外国語・英語コミュニケーションⅠ
- ・授業者：広島県立福山工業高等学校 教諭 高橋 恵

(6) 三次地区

ア 期日：令和4年11月14日(月)

イ 場所：広島県立庄原格致高等学校

ウ 内容

- ・教科等：外国語・英語コミュニケーションⅠ
- ・授業者：広島県立庄原格致高等学校 教諭 神垣 美穂

スピーチの部
広島県立竹原高等学校
アブラザ アイビー
ABLAZA, Ivy

When I was a little girl, I often heard, “What does a child know?” I was told not to correct adults’ mistakes. I was also not allowed to give my opinion. I was told that this behavior is impertinent and impolite. It seemed to me that if you were a bright and precocious child, adults would resent you and stifle your curiosity. It’s concerning that other young people are experiencing this when it’s adults that pronounce, “The youth is our only hope.”

This contradiction confuses me. Adults seemed oblivious to the issue of preventing young people from expressing themselves while promoting youth as the hope for the future. How could children be the hope for the future when adults were the ones that had all the answers and the ability to change the world? Adults presumably have the intellect, maturity, rational thinking, and the voice to reach others. Adults know how society functions, so how can they burden us with adult responsibilities?

I didn’t know the answer to this question back then. But growing up, I’ve realized why some adults are subconsciously holding back younger generations. Some adults restrain younger generations because they were passively raised and educated in usually a conservative and harsh schooling environment. This happens in every generation. Parents want to take pride in their children and want them to be excellent in school and skillful. This is not a bad initiative, and although it doesn’t come from a bad place, it can be devastating for kids when parents start to compare them to other children and force them into extracurricular activities that they don’t even want to take.

I can name a lot of situations where children cannot express their true self. For example, children not coming out to their parents or others because they’re anxious whether they will be accepted or not. It is not a sin when a person is a part of the LGBTQA+, we should change the way we see things, and we shouldn’t wear our glasses that filter out rainbow colors. We should respect them whatever their gender, sexuality, race, or religion is. They need our acceptance, assistance, and guidance, too.

These adults grew up in a repressive environment and, as a matter of course, now they are repeating their upbringing simply because they think their way must be the right way because that’s how they were brought up as children.

The only way to decrease these problems is to try harder to break the toxic cycle in which people keep the next generation of adults hindered by not allowing them to express themselves and show their creativity.

Fortunately, at my high school, students are given many opportunities to act independently, share our expertise, and help one another. Our teachers also take a great part in our lives by helping us improve and letting us use our voice when we have opinions by going out of their way to ask each and every one of us for our thoughts.

We should consider discipline with the intent of helping and nurturing them and not just as a punishment. Children have their own way of maturing. People need to be patient and give them enough freedom to prove themselves. We must support them so that they can achieve excellence, we have to understand that they need time to develop, they need time to ignite their inner passion, and then, when given the chances, opportunities and freedom, then they will be able to make the world a better place.

We can all contribute to creating an environment where children can reach their full potential and create a better society. At that time, we can honestly say, "Youth is our only hope."

スピーチの部
広島県立尾道東高等学校
2年・石橋七海・17歳・女
ISHIBASHI, Natsumi

How many people do you know who are left-handed? In the world, the number of people who are left-handed is one out of ten, and they are a minority compared to right-handed people. It is easy to see if people are left-handed. We can see it when they are writing something by hand or eating using chopsticks. Society has recognized this minority group and tried to make life more comfortable for them. For example, in daily life we now have left-handed scissors and left-handed guitars for them to use. We have accepted that left-handed people exist because we can easily see them every day. However, there is another group in society whose number is also one out of ten, but we cannot notice them easily because they are choosing to be hidden. Who are they? They are the LGBTQ.

In Japanese society, LGBTQ awareness is low because many LGBTQ people are afraid of coming out. According to the Japan LGBT Research Institution, 84% of Japanese people do not know anyone who identifies as LGBTQ, and 78% of Japanese LGBTQ people are still in the closet. Why can't LGBTQ people come out easily to others? This is because in Japan, they still face discrimination. According to Pride Japan, more than half of sexual minorities have experienced discrimination or bullying in the workplace or at school. Many LGBTQ people are being mentally and physically hurt by people who think that they are different and strange. In the worst case, this bullying causes emotional scars that can lead to suicide. This is a really serious problem, and we must do something about it.

We need to make a society in Japan where sexual minorities are not afraid to come out. We need to know about them, recognize them, and accept that it's good for people to be different.

If we make a society that is more accepting, LGBTQ people will feel more comfortable about coming out. Actually, in my case, I have had feelings for girls as well as boys. At first, it was difficult for me to admit this to my girlfriends, because they only talked about boys. However, when I finally got up the courage to say it, they accepted me, and I felt so relieved. This experience made me realize the importance of having an environment of acceptance. It also made me wish that someday we could have a society so accepting that coming out is no longer even necessary. By taking action, we can make life better not only for sexual minorities living today, but also for future generations.

First, we should use social media to spread awareness about sexual minorities. Let's learn more on our own and share what we find out with friends. Also, let's talk with many people about this topic. If someone says something disrespectful or false, we young people should have the courage to tell them that they are wrong. Society needs to understand that it's ok and good to be different, whether we are left-handed, right-handed, gay, or straight. We can start to make a change by talking with the people around us. Let's make a society where everyone can coexist.

第 59 回広島県高等学校
英作文コンテスト
1 年生の部
最優秀賞

What do you think the world will be like 20 years from now?

広島県立広島井口高等学校
1 年・三田 怜奈・16 歳・女
MITA, Reina

I think that a lot of people will eat insects in 20 years. Instead of meat and fish, the progress of edible insects can solve the problem of food shortage.

More and more people are suffering from serious hunger today. In the world, about 828 million people go to bed hungry every night. Especially, the number of people suffering from severe hunger has been increasing by 200 million since 2019, from 135 million to 345 million. In addition, in total, 50 million people in 45 countries are faced with acute level hunger. That is caused by a combination of four serious factors. First, conflicts remain the biggest factor of hunger. For example, about 60% of people suffering from the world hunger live in the areas which are affected by wars and violence. Next, climate shocks destroy crops and people's lives, and make it difficult to secure food for people. Also, the economic impact of the COVID-19 pandemic is pushing hunger to surprisingly levels up now. Finally, the price of food is very expensive. Unless we solve these problems, the world hunger problem cannot be eliminated.

According to FAO research, more than 1,900 species of insects are already consumed as food all over the world because the nutritional value of insects is high. The most consumed insects are beetles. People also eat caterpillars, bees, hunter wasps and grasshoppers, locusts, and crickets. The advantage of insects is that people can take in protein easily. For instance, the amount of protein contained in eight silkworm pupae and powdered crickets on gapao rice is about 3 grams, and it is equivalent to one and a half slices of ham. It is said that insects have as much protein as livestock cows, pigs, and chickens. According to the FAO report, cows include between 19 and 26 grams of protein per 100 grams of raw meat. However, grasshoppers have between 35 and 48 grams of protein in the same amount of grasshopper. In addition, insects include many minerals such as zinc, iron, calcium, and magnesium. They also have nutrients such as vitamins and unsaturated fatty acids. They are expected to be a very healthy ingredient with little sugar.

The biggest advantage of eating insects is that it is more eco-friendly than when we raise livestock such as cows and pigs. The amount of food needed to grow crickets is one-fifth of that for one cow. Surprisingly, the amount of water needed is one-seventy-seventh. That is, about 500 milliliters of water can hatch the egg to insects.

That is why edible insects are attracting attention in the world. In the rural areas of Laos, a country in Southeast Asia, does the farming of *rhyngophorus ferrugineus*. Insects are small, so people can breed them with less labor and burden.

I believe that in 20 years the world will see insects as an important food. If more insects become edible, that can be one of the solutions to hunger problems.

第 59 回広島県高等学校
英作文コンテスト
2 年生の部
最優秀賞

“The experience I will never forget”

広島県立呉三津田高等学校
2 年・小栗美咲・16 歳・女
OGURI, Misaki

This is the story of how I met my best friends. I was a young kindergartener at the time and went to kindergarten in the next town over. Because of this, I could count the number of people who went there from the same town as me. In addition, I was very shy at the time. I was too shy to talk on my own! There was no way I could make friends, so I was always playing by myself. All the pictures in my photo album from when I was young are of me alone. A lonely child, you say? But you know, it was fun to be alone. Every day I played different games. One day I would make mountains in the sandbox, the next day I would make mud dumplings. Every day, I'd think about what I'm going to do tomorrow. But everyone else was different. They held hands with their friends and laughed with each other. I can still remember them. It may be I was jealous. I really wanted to have friends. Making and breaking mountains with friends. Competing to see who could make the prettiest mud dumplings. That sounds more fun than breaking and making things by myself. I still wanted friends. That's what I thought. But how? There is no book on how to make friends. I remember it was hard for me to join the group because everyone had found a girl they got along with. I knew I couldn't do it. So I thought I would play by myself.

But one day that routine changed. I can remember that day as if it were today. It was in the fall, when the summer heat was still lingering, I was making mud dumplings that day, as usual. I brushed and polished them. Then, I heard a high, lovely voice, “Hello, what's your name?” I didn't know it was directed at me at time, but I was the only one around. I looked toward the voice and saw a girl with wavy hair, and two other girls. All three girls were looking straight at me. They said their names and asked again, “What's your name?” I answered. The voice was probably small, but they smiled and said, “Let's play together!” It was my first time playing with other girls. Playing with someone else was so much more fun than playing by myself. After playtime was over, before returning to the classroom, I gathered up my courage and said, “Be my friend!” They were surprised for a moment, and smiled and said, “You're a friend now, aren't you?” My world changed from that moment. They came to me every day to invite me to play. We made and broke mountains, competed to see who could make the prettiest mud dumplings, and played fetch. We stayed together until graduation and, fortunately, we lived in the same town. So, we went to school and graduated together. Without them, I would have been a lonely child.

We all moved away from each other in high school, but they will always be my best friends.

I'm still embarrassed to say that I'm still making friends in high school, but I'm okay now. Now, it's my turn.

“Hello, what's your name ?”

令和4年度広島県高等学校教育研究会英語部会概要

部会長	小野 裕之（佐伯高等学校）	
副部会長	高橋 真（安芸府中高等学校校長）	原田 豊之（油木高校校長）
理 事	小崎 靖子（可部高等学校教諭）	時川 直子（海田高等学校教諭）
	松島 浩司（呉三津田高等学校教諭）	神垣 美穂（庄原格致高等学校教諭）
	マーフィー パトリック（尾道東高等学校講師）	村上 浩司（松永高等学校教諭）
庶 務	檜山 敬二（五日市高等学校教諭）	久保田 早苗（五日市高等学校教諭）
	中本 真吾（五日市高等学校教諭）	長原 明夫（五日市高等学校教諭）
監 事	矢野 由美子（安芸南高等学校教頭）	神笠 薫子（尾道東高等学校教頭）
事務局長	洪 美律（五日市高等学校講師）	
会 員 数	322 名 <県立 270 名, 市立 14 名 私立 23 名, 国立 15 名>	
会 費	1 人当り 500 円	

広島県高等学校教育研究会英語部会会則

第1条【名称と所在地】 本会は、広島県高等学校教育研究会英語部会と称する。また、この会の所在地を会長の勤務する高等学校に置く。

第2条【目的】 本会は、英語教育に関し、広島県教育委員会の指導のもとに、学習指導要領等の法令に則って自主的・創造的な教育研究活動を行い、本県高等学校、特別支援学校及び高等専門学校教育関係者の資質向上と学校教育の振興を図ることを目的とする。

第3条【事業】 本会は、前条の目的を達成するために、次の事業を行う。

- 1 研究会、講習会、講演会等の開催
- 2 英語教育に関する研究、調査等
- 3 会員並びに生徒の研究および発表の助長
- 4 研究紀要の発信
- 5 他の語学教育研究団体との連絡協力
- 6 その他、本会の目的を達成するために必要と認められる事項

第4条【会員】 本会は、本会の趣旨に賛同する県内高等学校、特別支援学校及び高等専門学校の教職員で構成し、支部を広島西、広島東、呉、尾三、福山、三次の各地区に置く。

第5条【入会及び退会】 ① 会員は除名される若しくは退会の申し出がない限り継続するものとする。

② 新規に会員になろうとする者は、役員会において別に定めるところにより本会会長に申し出なければならない。

③ 退会する者は、役員会において別に定めるところにより本会会長に申し出なければならない。

第6条【役員】 本会には次の役員を置く。

- | | |
|-----------|-----|
| (1) 会長 | 1名 |
| (2) 副会長 | 若干名 |
| (3) 理事 | 若干名 |
| (4) 庶務・会計 | 若干名 |
| (5) 監事 | 2名 |

1 会長及び副会長は、校長の職にある者でなければならない。

2 役員を選任は、次のとおりとする。

- (1) 会長、副会長、監事は役員会において選任する。
- (2) 理事は各地区支部より選任する。
- (3) 庶務、会計は会長が委嘱する。

第7条【職務】 役員職務は次のとおりとする。

- 1 会長は、本会を代表し、会務を統括する。

- 2 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるとき又は会長が欠けたとき、その職務を代理し又は代行する。
- 3 理事は会務を分担処理する。
- 4 庶務、会計は本会の庶務及び会計の事務を行う。
- 5 監事は、会計を監査する。

第8条【任期】 任期については次の通り定める。

- 1 役員の任期は1年とする。ただし、補欠又は増員により選任された役員の任期は、前任者又は現任者の残任期間とする。
- 2 役員は、再任されることができる。
- 3 役員は、辞任又は任期満了後においても、後任者が就任するまではその職務を行わなければならない。

第9条【役員会】 会長は、本会の運営等について協議が必要な場合は、第6条に定める役員会を招集する。

第10条【総会】 本会は毎年1回、総会を開き、重要な事項につき協議する。総会は役員会をもって代行することができる。

第11条【会計】 本会の運営経費は、会費ならびに寄付金、その他の収入で充当し、その額は役員会において別に定める。

第12条【会計期間】 本会の会計年度は、4月1日に始まり翌3月31日に終わる。

第13条【事務局】 本会にかかる庶務を処理するため、役員会において別に定める学校に事務局を置く。

第14条【除名】 会員が、教育研究会及び本会の目的に反する行為を行った場合、役員会の4分の3以上の賛成により除名することができる。

第15条【会則改正】 この会則の改正は役員会の4分の3以上の賛成及び広島県高等学校教育研究会の承認を得なければならない。

(その他)

第16条 この会則に定めるもののほか、本会の運営に必要な事項は、会長が定める。

第17条 この会則は、平成12年7月1日より施行する。

- 附 則 この会則は平成19年7月1日より施行する。
- 附 則 この会則は平成21年7月1日より施行する。
- 附 則 この会則は平成23年4月1日より施行する。
- 附 則 この会則は平成24年11月1日より施行する。
- 附 則 この会則は令和2年7月1日より施行する。